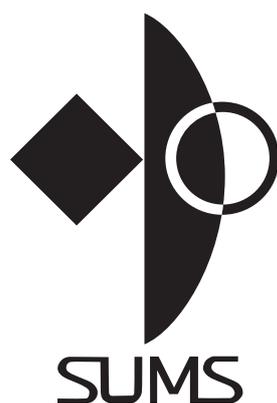


2026年度  
大学院  
学生募集要項

医療科学研究科  
薬学研究科



鈴鹿医療科学大学

<https://www.suzuka-u.ac.jp>

# 目 次

## 医療科学研究科

修士課程	I. 入学試験要項	
	① 募集人員	1
	② 入試日程	1
	③ 出願資格	1
	④ 出願資格審査の申請方法 <small>(学士の学位を取得していない方対象)</small>	2
	⑤ 選抜方法	2
	⑥ 試験時間割	2
	⑦ 試験会場	2
	⑧ 事前面談	3
	⑨ 出願書類	3
	⑩ 合格発表	4
	⑪ 入学諸費用	4
	⑫ 奨学金制度	4
	⑬ 長期履修制度	4
	⑭ 細胞検査士資格取得コース	5
	⑮ 科目等履修生	5
⑯ 公認心理師・臨床心理士資格 取得コースの事前説明会について	5	
II. 授業科目等		
アドミッション・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー	6	
授業科目	7	
授業科目概要	10	
研究指導教員一覧	24	
博士後期過程	III. 入学試験要項	
	① 募集人員	28
	② 入試日程	28
	③ 出願資格	28
	④ 選抜方法	28
	⑤ 試験時間割	29
	⑥ 試験会場	29
	⑦ 事前面談	29
	⑧ 出願書類	29
	⑨ 合格発表	30
	⑩ 入学諸費用	30
	⑪ 奨学金制度	30
	⑫ 長期履修制度	30
	IV. 授業科目等	
	アドミッション・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー	31
	授業科目	32
授業科目概要	33	
研究指導教員一覧	24	

## 薬学研究科

博士課程	I. 入学試験要項	
	① 募集人員	35
	② 入試日程	35
	③ 出願資格	35
	④ 選抜方法	35
	⑤ 試験時間割	35
	⑥ 試験会場	36
	⑦ 出願する前に	36
	⑧ 出願書類	36
	⑨ 合格発表	37
	⑩ 入学諸費用	37
	⑪ 奨学金制度	37
	⑫ 長期履修制度	37
	⑬ 大学院設置基準 第14条 教育方法の特例の実施	37
	II. 授業科目等	
	アドミッション・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／ディプロマ・ポリシー	38
教育課程等の概要	39	
授業科目概要	40	
研究指導教員一覧	54	

# 【医療科学研究科 医療科学専攻 修士課程】

## I 修士課程入学試験要項

### 1 募集人員（1期・2期）

研究科	課程	学位	専攻	募集人員	備考
医療科学	修士	修士(医療科学)	医療科学	30名	募集人員は社会人特別選抜、細胞検査士資格取得コース、公認心理師・臨床心理士資格取得コースを含む。

### 2 入試日程

入試形態	出願期間（締切日消印有効）	入試日	合格発表日	入学手続締切日（締切日消印有効）
1期	2025年8月22日(金)～8月29日(金)	2025年9月21日(日)	2025年10月7日(火)	2025年10月20日(月)
2期	2026年2月2日(月)～2月9日(月)	2026年3月7日(土)	2026年3月16日(月)	2026年3月23日(月)

### 3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する方とします。

#### ○一般入試

次の各号のいずれかに該当する方とします。

- (1) 大学を卒業、または2026年3月卒業見込みの者
- (2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者、または2026年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者、または2026年3月までに修了見込みの者
- (4) 日本において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者、または2026年3月までに修了見込みの者
- (5) 文部科学大臣が指定した各省大学校を修了した者
- (6) 本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者[P-2④参照]

なお看護学分野においては、看護系短期大学、看護専門学校、高等学校専攻科の卒業生で、3年以上の看護職の実務経験はあるが、学士を有していない者で、本研究科において個別の出願資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

#### 出願資格審査対象者の基準(看護学分野)

出願資格(6)に該当する看護職で次の各号のいずれかに該当する方に対しては、出願資格審査を行い、出願資格を認定された者は入学試験を受験することができる。

- (1) 看護の向上に資する研究業績を有する者
- (2) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則第2条もしくは第3条の養成所を修了し、保健師もしくは助産師の資格を有する者
- (3) 看護教員養成課程（厚生労働省、財団法人日本看護協会、都道府県など公共またはそれと同等となる機関の6ヶ月以上の卒後研修コース）を修了した者
- (4) 認定看護師もしくは認定看護管理者の資格を取得した者

#### ○社会人特別選抜

現在、病院、会社等に1年以上在職中であり、上記の一般入試出願資格事項に該当する者  
看護学分野においては実施しない。

#### ○細胞検査士資格取得コース(臨床検査技師の有資格者を対象 P-5④参照)

#### 4 出願資格審査の申請方法(学士の学位を取得していない方対象)

##### 1. 申請方法

必要書類を定型外角型3号の封筒に入れ、「大学院医療科学研究科 出願資格審査申請書在中」と朱書きし、期日までに提出してください。郵送・窓口どちらでも受け付けます。郵送の場合は締切日必着としてください。窓口に出呈する場合の受付時間は平日の午前9時から午後5時30分までです。

##### 2. 出願資格審査に必要な書類(本学所定書式は本学 HP [URL <https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi-department/document/>] からダウンロードしてください。

[鈴鹿医療科学大学](#) → [入試情報](#) → [入試関連資料一覧](#) をクリック)

①鈴鹿医療科学大学大学院 医療科学研究科 出願資格審査申請書(本学所定書式)

②最終教育施設の卒業証明書(厳封)

③最終教育施設の成績証明書(厳封)

④国家資格免許証の写し

⑤研究業績一覧(本学所定書式)

⑥審査結果通知用封筒(長型3号封筒に受け取り先住所を記載し切手を貼付)

##### 3. 出願資格審査申請期間

1期入学試験受験希望者: 2025年7月14日(月)～2025年7月22日(火)

2期入学試験受験希望者: 2026年1月6日(火)～2026年1月13日(火)

##### 4. 申請書類の提出先(郵送先)

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1  
鈴鹿医療科学大学 大学院課  
TEL 059-340-0334

##### 5. 出願資格審査の結果通知

審査結果は、下記の日程をめぐりに申請者にお知らせします。

第1期入学試験受験希望者: 2025年8月7日(木)

第2期入学試験受験希望者: 2026年1月28日(水)

出願資格を認定された方は、出願手続を行ってください。なお、出願書類の内「卒業証明書」「成績証明書」「研究業績一覧」は、出願資格審査の申請時に提出済みですので必要ありません。

#### 5 選抜方法

	一般入試	社会人特別選抜
試験科目	* 筆記試験(専門)および面接	

※・各専門分野のうち1分野を出願時に選択して頂きます。

・次の分野は、英文問題の出願が含まれます。当日は英和辞書(電子辞書は不可)の持ち込み可となります。  
公認心理師・臨床心理士資格取得コース、放射線情報学分野、医療栄養学分野、理学療法学分野、臨床心理学分野、臨床工学分野、医療情報実践学分野

・合格判定基準: 筆記試験50点満点、面接試験50点満点の総合点を100点満点とし、面接点が6割以上、かつ総合点6割以上を合格とする。

#### 6 試験時間割

入試形態	試験日	時間割	
		13:00～14:30	14:50～
1期	2025年9月21日(日)	筆記試験	面接
2期	2026年3月7日(土)		

#### 7 試験会場

入学試験は下記にて行います。

1期・2期 鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパス(三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1)

## 8 事前面談

出願を希望する者は、指導を受けることを希望する教員（P24～27）と出願前（出願資格審査を受ける者は申請前）に必ず連絡をとり、修士課程において行いたい研究内容や単位取得等について相談してください。

その場合、大学院課（TEL:059-340-0334）まで連絡するか、メールにて教員と直接連絡を取ってください。年度によって研究指導できない場合もありますので、ご了承ください。

公認心理師・臨床心理士資格取得コースを希望される方はP5 16をご参照ください。

## 9 出願書類（出願時に、○印及び△印（必要な方のみ）の書類を提出してください。）

一 般 入 試	社 会 人 特 別 選 抜	出願書類	諸 事 項
		入 学 志 願 票 受 験 票	・必要事項を記入してください。 ・裏面も忘れず記入してください。 ・希望指導教員は、教員と連絡を取ったうえ、必ず記入してください。
○	○	志 願 者 写 真 票	（希望指導教員はP24～27を参照してください）
○	○	受 験 票 返 信 用 封 筒	・特定記録郵便として切手を貼り、住所氏名を記入した定型封筒を各自用意してください。
○	○	検 定 料	・35,000円（本学在卒者は免除します） ・検定料は所定の払込用紙を使用してください。本学窓口では扱いません。
○	○	成 績 証 明 書	・在卒学校のものを出願してください。（本学在卒者は提出不要です）
○	○	卒 業（見 込 み）証 明 書	・在卒学校のものを出願してください。（本学在卒者は提出不要です） ・学位授与機構にて学士を取得した方は、学位授与機構が発行したものを併せて提出してください。 ・短期大学・高等専門学校の専攻科修了見込みの方は、修了見込み証明書及び学士の学位授与を申請する予定の証明書を提出してください。
○	○	書 類 等 送 付 先 住 所 シ ール	・合否通知発送等に使用しますので正確に記入してください。
※1	○	受 験 お よ び 就 学 許 可 書	・出願時在職中の方は提出してください。
※2 ※3	○ ※3	業 績、研 究 計 画 書	・次の書類を提出してください。 ①今まで行ってきた研究・仕事内容等（A4サイズ、形式は自由） ②研究業績一覧（本学所定様式） ③研究計画書（本学所定様式） 〔本学所定様式は本学HP[ <a href="https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi-department/document/">https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi-department/document/</a> ] からダウンロードしてください。〕 〔 <a href="#">鈴鹿医療科学大学</a> → <a href="#">入試情報</a> → <a href="#">入試関連資料一覧</a> をクリック〕
	△	日 本 診 療 放 射 線 技 師 会 会 長 からの 推 薦 状	・（公社）日本診療放射線技師会のクリニカルラダー、もしくはマネジメントラダーのレベル4を取得している方は、学士の学位が未取得であっても、日本診療放射線技師会会長の推薦を受けることで出願することができます。また、当該推薦者は入学金を100,000円とします。推薦を受ける方は、本要項に添付の推薦状を日本診療放射線技師会へマネジメントラダー、クリニカルラダーのレベル4を取得している事がわかる写しと返信用封筒を同封の上送付し、推薦を受けてください。

※1 看護学分野で社会人の方は提出してください。

※2 看護学分野の方は②、③の書類を提出してください。

※3 臨床心理学分野の方は、研究計画書（事例研究について）を提出してください。研究計画書の書き方の詳細については、事前面談時に説明します。

### <出願手続>

- ・出願は郵送・窓口どちらでも受付けます。郵送の場合は締切日消印有効です。
- ・出願書類を郵送する場合は、本学所定の封筒を使用してください。
- ・窓口出願の受付時間は平日の午前9時から午後5時30分までです。
- ・提出先 〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町 1001 番地 1

鈴鹿医療科学大学 大学院課  
TEL. 059-340-0334

## 10 合格発表

入試形態	合格発表日	発表方法
1期	2025年10月7日(火)	郵送にて通知します。
2期	2026年3月16日(月)	

合格発表日から2週間以内に大学院課に問い合わせを頂ければ総合点を開示します。

## 11 入学諸費用

年間所要額は次のとおりです。

(単位:円)

入学金	授業料	合計 (一括金額)	分割 の場合	前期分 (入学手続時納入金)	後期分
				200,000	750,000

- ・学納金は一括、分割のどちらかを選ぶことができます。分割の場合は入学手続時に前期分を納入し、入学後の9月末に後期分を納めることになります。
- ・入学金は本学学部卒業(見込)生は免除、(公社)日本診療放射線技師会推薦者(同会会員に限る)、鈴鹿市推薦者(鈴鹿市公立小中学校教員に限る)、特定非営利活動法人三重県障がい者福祉連絡協議会推薦者(同会会員に限る)及び三重県厚生農業協同組合連合会推薦者(同会病院の看護師に限る)は100,000円とします。
- ・1期合格者は2025年10月20日(月)、2期合格者は2026年3月23日(月)までに入学諸費用を納入してください。
- ・入学手続完了後、2026年3月23日(月)までに入学の辞退を申し出た場合は、入学金を除く授業料を還付します。

## 12 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金があります。(以下は2025年度入学者適用金額)

種別	貸与月額
第一種(無利子貸与)	5万円または8万8千円
第二種(有利子貸与)	5・8・10・13・15万円から選択

## 13 長期履修制度

この制度は、職業を有している等の事情により修学困難な方に対して、修業年限2年の学費納入で、修業年限を越えた期間(最長1年間)に、計画的な教育課程の履修を認めるもので、社会人の方が時間をかけて着実に学ぶための制度です。

希望される方は、2年次8月末までに申請をして頂きます。

## 14 細胞検査士資格取得コース

細胞検査士資格取得コースは、修士の学位に加え、細胞検査士の受験資格取得が可能です。  
当コースは主に次のような方を対象としています。

1. 現在、大学において臨床検査学専攻等の在学生在で、2026年3月までに大学を卒業または卒業見込みの方で、臨床検査技師の資格を入学時まで取得している方。（臨床検査技師の資格が取得できない場合は入学を取り消します。）  
※通常の授業料に加え、病院での実習代として、別途5万円程度（1年間のみ）の支払いが必要となる場合があります。
2. 臨床検査技師として主に細胞診検査等の実務に1年以上従事している社会人の方  
本学大学院では土・日に授業を行い、社会人の方が勤務しながら細胞検査士の受験資格が取得できるよう配慮しております。

## 15 科目等履修生

本学において特定の授業科目を履修し、単位を取得することができます。

本学の教育・研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可します。希望する方は本学所定の様式にて申請してください。

詳細・申請書類様式については、本学HPをご参照ください。（<https://www.suzuka-u.ac.jp/guide/education/society>）

### （1）履修上の注意

- 1) 大学院にて1期あたりに履修できる単位は、5単位以内です。
- 2) 前・後期それぞれの申し込み手続きが必要です。
- 3) 演習・実験・実習・実技科目などは履修できない場合があります。

### （2）出願資格

- 1) 学士の学位を有する者
- 2) 前号に準ずる学力があると本学が認めた者（p-2 4 出願資格審査の申請方法に従い出願前に申請してください。）

### （3）出願期間・選考結果

- 1) 2025年度後期：2025年6月30日（月）まで 選考結果は8月上旬にお知らせします。
- 2) 2026年度前期：2026年2月28日（土）まで 選考結果は3月下旬にお知らせします。

### （4）費用

- 1) 検定料：10,000円
- 2) 入学金：30,000円 ※本学卒業生は免除とする。
- 3) 授業料（1単位につき）：20,000円
- 4) 実習費：実費徴収
- 5) 学生教育研究災害傷害保険料（1年間）：1,020円

### （5）選考

書類選考を行います。面接は必要に応じて行います。

## 16 公認心理師・臨床心理士資格取得コースの事前説明会について

当該コースの受験を希望される方は、事前説明会をZOOMにて次の日程にて開催しますので、必ずご参加ください。申込締切日までに、大学院課（[yamakawa@suzuka-u.ac.jp](mailto:yamakawa@suzuka-u.ac.jp)）までご連絡をお願いします。

- |      |       |                      |
|------|-------|----------------------|
| 1期入試 | 申込締切日 | 2025年7月16日（水）        |
|      | 開催日   | 2025年7月21日（月）10時～11時 |
| 2期入試 | 申込締切日 | 2025年11月5日（水）        |
|      | 開催日   | 2025年11月9日（日）10時～11時 |

## Ⅱ 修士課程 授業科目等

### 【アドミッション・ポリシー（入学選抜の方針）】

鈴鹿医療科学大学大学院修士課程は、本学の「科学技術の進歩を、真に人類の健康と福祉の向上に役立たせる」という「建学の精神」のもと、保健・医療・福祉にかかわる各分野の横断的な知識と技術を身に付け、応用力を持ち倫理観あふれる人材の育成を目的としている。

そのため次のような学生を求める。

1. 現在あるいは将来、保健・医療・福祉の専門職として臨床・臨地および教育の場で活動するために、各専門分野の高度な知識・技術および専門職としての態度を修得することを目指す学生
2. 臨床・臨地および教育の場が抱える様々な課題を科学の手法を用いて解決しようとする意欲を持ち、それぞれの場で専門とする分野のリーダーシップを発揮するとともに、他分野の専門職との適切なコラボレーションを図ることを期待できる学生
3. 将来臨床・臨地および教育の場で活動する学生については、実際の場を十分に理解していることを前提として、その分野が抱える課題を他分野との協働など広い視野で、科学の手法を用いて解決する意欲と実践力を期待できる学生

### 具体的な人物像

- 1) 保健・医療・福祉に関連する高度な知識、技術および専門職としての態度を身に付けようとする人
- 2) 臨床・臨地および教育現場の課題解決にあたって科学的精神を持って臨もうとする人
- 3) 自らの専門だけでなく、広く保健、医療、福祉の領域に関心を持っている人
- 4) 保健、医療、福祉の現場において、チーム医療を含む多職種連携に取り組む意欲のある人
- 5) 臨床・臨地および教育現場や研究活動において、人の尊厳を基本にすることができる人

### 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）】

本学の医療科学専攻の学位授与方針に掲げた5項目を達成するための教育課程編成の方針を以下に示します。

1. 保健・医療・福祉の各分野における最先端の知識と高度な技術および専門職としての態度を身に付けるために、分野共通科目、各専門分野科目を設置する。
2. 各専門分野の研究に関して、課題の発見、課題解決のための方法、結果の検証、結果の報告・発表などを系統的に学ぶために、専攻共通科目として「医療科学輪講」、「医療科学特別研究」を設定する。
3. 医療科学各分野の現代的な課題を学び、自らの専門分野と他職種との関連および協働のあり方を考察するために各専門分野科目を設置する。
4. 各分野の専門職としての高度な倫理、科学研究を行う上での高度な倫理観を身に付けるために「医療倫理学特講」科目を設置する。
5. 全科目を通じて、臨床・臨地および教育現場での実践、研究活動において国際的な視野を認識できるように授業を展開する。

### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

本学は大学院で医療科学を専攻し、5つの教育目標について以下の5項目を修得した学生に修士（医療科学）の学位を授与します。

1. 保健・医療・福祉の各分野における最先端の知識と高度な技術および専門職としての態度を身に付けている。
2. 自らの専門とする分野の研究課題について、科学的な思考と方法によってアプローチできる。
3. 自らの専門分野と、他職種との関連および協働を土台にして、チーム医療を含む多職種連携を実践することができる。
4. 高度な倫理観に基づき臨床・臨地および教育現場での活動、研究を進めることができる。
5. 臨床・臨地および教育現場での実践、研究活動において常に国際的な視野を意識することができる。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
分野共通	医療科学特論A	1・2		2	1. 本課程に2年以上在学して所定の授業科目について30単位以上(必修14単位・選択16単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。 2. 医療科学特論A、B、Cのうちいずれか1科目2単位を修得すること。ただし、看護学分野の院生は必ず「医療科学特論C」を修得すること。 3. ※が付いている科目は、当該分野の院生のみ履修可能である。
	医療科学特論B	1・2		2	
	医療科学特論C	1・2		2	
	臨床医療科学特講A(修士)	1・2	1		
	臨床医療科学特講B(修士)	1・2	1		
	外書講読Ⅰ	1	1		
	外書講読Ⅱ	2	1		
	医学統計特論(修士)	1・2		2	
	医療安全管理学特講(修士)	1・2		2	
	医療倫理学特講(修士)	1・2		2	
	病態学特論	1・2		2	
	臓器連関学特論	1・2		2	
放射線情報学	診療放射線研究方法論	1・2		2	
	画像処理特論	1・2		2	
	核医学特論	1・2		2	
	画像解剖学特論	1・2		2	
	診療放射線教育学特論Ⅰ	1・2		2	
	診療放射線教育学特論Ⅱ	1・2		2	
	キャリア・リーダーシップ開発特論	1・2		2	
	放射線生体応答学特論	1・2		2	
医療栄養学分野	病態栄養学特論	1・2		2	
	機能性高分子特論	1・2		2	
	生体化学特論	1・2		2	
	内分泌代謝栄養学特論	1・2		2	
	分子・細胞栄養学特論	1・2		2	
	食品機能・栄養生化学特論	1・2		2	
	公衆栄養学特論	1・2		2	
臨床検査学分野	臨床検査学特論	1・2		2	
	臨床化学分析特論	1・2		2	
	免疫生物学特論	1・2		2	
	分子遺伝学特論	1・2		2	
	臨床血液検査学特論	1・2		2	
	病理組織検査学特論	1・2		2	
	分子細胞病理学特論	1・2		2	
	細胞診検査学特論※	1・2		2	
	細胞診検査診断学実習※	1・2		2	
理学療法学分野	運動制御学特論	1・2		2	
	臨床生体力学特論	1・2		2	
	運動機能障害学特論	1・2		2	
	理学療法メカノバイオロジー特論	1・2		2	
	徒手理学療法学特論	1・2		2	
	リハビリテーション教育学特論	1・2		2	
作業療法学分野	作業療法理論学特論	1・2		2	
	作業活動生体反応学特論	1・2		2	
	作業機能障害支援学特論	1・2		2	
	地域作業療法支援学特論	1・2		2	
	作業療法政策特論	1・2		2	
	高齢期作業療法支援学特論	1・2		2	
	発達過程作業療法学特論	1・2		2	
	小児リハビリテーション学特論理	1・2		2	
	リハビリテーション教育心理学特論	1・2		2	
医療福祉学分野	医療福祉経営学特論	1・2		2	
	福祉専門職特論	1・2		2	
	医療福祉学特講	1・2		2	
	地域包括医療・福祉特論	1・2		2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
臨床心理学分野	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1		2	
	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	1		2	
	健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)	1		2	
臨床工学分野	生体信号処理特論	1・2		2	
	肺循環機能学特論	1・2		2	
	電気生理学的治療機器特論	1・2		2	
	生体システム工学特論	1・2		2	
	医用電気・電子工学特論	1・2		2	
	人工臓器工学特論	1・2		2	
医療情報実践学 分野	データ解析学特論	1・2		2	
	医療情報システム特論	1・2		2	
	画像認識システム特論	1・2		2	
	知的情報処理特論	1・2		2	
	上級情報処理実践	1・2		1	
鍼灸学分野	鍼灸臨床技術学実習Ⅰ※	1		2	
	鍼灸臨床技術学実習Ⅱ※	1		2	
	鍼灸臨床技術学実習Ⅲ※	2		2	
	鍼灸技術学特論	1・2		2	
	実験鍼灸学	1・2		2	
	看護理論	1		2	
	看護研究方法論	1		2	
看護学 分野	看護倫理	1		2	
	リーダーシップ特論	1		2	
	ヘルスアセスメント特論	1		2	
	看護実践教育学特論	1		2	
	看護実践支援特論 ※	1・2		2	
	看護実践支援演習 ※	1・2		2	
共通 専攻	医療科学輪講(修士)	1～2	4		
	医療科学特別研究(修士)	1～2	6		

【公認心理師・臨床心理士資格取得コース】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
臨床心理学分野	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		2	1. 本課程に2年以上在学して所定の授業科目について30単位以上(必修10単位、選択20単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。 2. ※が付いている科目は、臨床心理士志望院生のみ履修可能である。
	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1		2	
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		2	
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と実践）	1		2	
	産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1		2	
	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1		2	
	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1		2	
	心理実践実習 A	1～2		4	
	心理実践実習 B	1～2		4	
	心理実践実習 C	1～2		2	
	臨床心理学特論Ⅰ ※	1		2	
	臨床心理学特論Ⅱ ※	2		2	
	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1		2	
	臨床心理面接特論Ⅱ ※	1		2	
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1		2	
	臨床心理査定演習Ⅱ ※	1		2	
	臨床心理基礎実習 ※	1		2	
	臨床心理実習Ⅰ ※	2		1	
	臨床心理実習Ⅱ ※	2		1	
	心理統計法特論	1・2		2	
臨床心理学研究法特論 ※	1		2		
人格心理学特論 ※	1・2		2		
投映法特論 ※	1		2		
心理療法特論 ※	1		2		
共通専攻	医療科学輪講（修士）	1～2	4		
	医療科学特別研究（修士）	1～2	6		

【細胞検査士資格取得コース】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通分野	臨床医療科学特論 A（修士）	1・2	1		1. 本課程に2年以上在学して所定の授業科目について30単位以上(必修20単位を含む)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。 2. ※当該科目は、細胞検査業務に1年以上従事した事の無い者は、必修とする。 3. 選択科目については医療科学研究科・医療科学専攻(修士課程)の選択科目を履修することができる。
	臨床医療科学特論 B（修士）	1・2	1		
臨床検査学分野	細胞診検査学特論	1・2	2		
	細胞診検査診断学実習	1・2	2		
	細胞診画像診断学特論	1・2	2		
	細胞診検鏡実習	1・2	4		
	細胞診検査実務実習※	1・2		10	
共通専攻	医療科学輪講（修士）	1～2	4		
	医療科学特別研究（修士）	1～2	6		

授業科目概要 (講義内容を変更することがあります。)

	授業科目の名称	講義等の内容
分野 共通	医療科学特論 A	健康においてそれを支える3つの要素、心の持ち方、食生活の在り方そして運動が重要であることは広く認識されている。これらの因子で現代医学研究によって明らかになって来たことを中心に講義を行う。食においては長寿遺伝子とそれを刺激する因子および刺激をすると具体的にどんな変化が起こるか、また食生活の改善が病人および病気一歩前の人たちにどのような影響を与えるか、また健康の尺度はどのような検査によって可能となるか、さらには新しい検査の在り方などをそれぞれの専門家が、専門的な立場から分かり易く講義する。
	医療科学特論 B	現代医療において重要なテーマとして、チーム医療がある。チーム医療を実現するために医療従事者が身に付けておかなければならない基礎知識として、各専門分野の教員が、もっとも重要であると思うトピックを選びオムニバス形式で講義を行う。内容は、さまざまであるが、チーム医療を効果的に実施していくうえで、欠かすことのできない知識を得ることができるだろう。また、この講義で学習したことを元に、臨床において、チーム医療はいかにあるべきかを考察し、深めていくことが望まれるのであって、学部の講義に比べると、より実践的、臨床的な講義となるだろう。
	医療科学特論 C	専門職としての生涯学習の観点から、継続的な能力開発・人材育成において基盤となる理論を理解し、生涯学習支援、実践教育環境の開発・改善の方略を検討する。具体的には、学習理論・教育理論に関する文献クリティーク、学習環境のデザイン、人材育成の方法について学習し、実際の教育計画を批判的に分析し、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を修得する。
	臨床医療科学特講 A (修士)	現在の医療は専門化が著しく進み、専門外のことに非常に疎くなりつつある。医療に携わる者としては、個々の専門分野以外に広く医療全体の概略を把握しておく必要がある。そこで医療従事者が知っておくべき基本的な重要である項目「医学とは何か、医療制度と保険制度、医療法制と医療事故、医療現場の現況、病院経営とリスクマネジメント、チーム医療の実際等」を概説し、その実際を学ぶ。
	臨床医療科学特講 B (修士)	WHO 憲章によれば「健康とは、身体的、精神的、および社会的に完全な状態であって、ただ単に疾病や虚弱ではないということではない」とされている。医学的、運動生理学的見地から「健康」について考察し、健康の意義、疾病、特に成人病、生活習慣病に対する医療従事者が取るべき思考過程、実践行動について指導する。さらに命の尊さ、尊厳死について学生同士のディベートを企画、思考を深める。具体的には身体の構造、生理、機能に関しての最低限の知識のほか人文科学的見地からの探求を行う。
	外書講読 I	科学研究の推進には世界的に情報を収集することが不可欠であり、英語で書かれた学術論文を読み解く能力は必須である。また、自身の研究成果を広く知らせる為には、わかり易くプレゼンテーションする能力が必要である。本授業では英語の文献を用いて外書講読の能力を養う。受講者は専攻する分野の研究に関する英語論文等を読み理解し、内容をまとめて発表する。また、担当教員や他の受講者の質問に答える。
外書講読 II	科学研究の推進には世界的に情報を収集することが不可欠であり、英語で書かれた学術論文を読み解く能力は必須である。また、自身の研究成果を広く知らせる為には、わかり易くプレゼンテーションする能力が必要である。本授業では英語の学術論文を用いて外書講読 I 等で磨いた英文読解能力やプレゼンテーション能力を磨く。同時に学位論文執筆を視野に入れ、表現方法などの執筆技法も学ぶ。受講者は専攻する分野の研究に関する英語学術論文を読み解き、執筆技法も含め内容をまとめてプレゼンテーションする。そして、担当教員や他の受講者の質問に答える。	

	授業科目の名称	講義等の内容
分野共通	医学統計特論（修士）	医学・医療分野では決定論的な結論を導くことが困難な場合には、データを統計的方法で分析して結論を求めることが多い。本講は既に学部で基礎統計学を学んだことを前提により深く、統計基礎と医学応用を中心に学ぶ。基礎では、確率変数と分布、大数の法則、中心極限定理、近似表現、推定理論と検定理論にスポットを当て、統計の考え方を理解することに重点を置く。医学応用では、標本の大きさデザイン、分散分析 ANOVA、臨床試験と疫学における利用について理解する。医学・医療で使う統計手法を理論と応用の両面から修得する。
	医療安全管理学特講（修士）	医療安全対策は世界各国で活発化してきており、わが国においても 2001 年に設置された「医療安全対策検討会議」が報告書をまとめ、医療の安全が確保され信頼される医療実現のための政策が打ち出され、医療関係者官民一体で取り組んでいる。本講義では、現在のわが国の医療安全対策を理解し、1) 医療安全の確保の課題と解決方策 2) 今後の医療安全対策 3) 国として当面取り組むべき課題等、について先進国との比較検討すると共に医療従事者として必要な医療安全に対する知識を習得する。
	医療倫理学特講（修士）	医療倫理はヒポクラテスの時代から唱えられているが、最近の医療の進歩に伴い、その重要性はますます高まっている。本特論では①インフォームドコンセント、②臨床試験の倫理、③動物実験の倫理、④脳死と臓器移植、⑤緩和ケアの倫理、⑥災害医療の倫理、⑦告知、⑧チーム医療の倫理、⑨生殖医療の倫理など、さまざまな医療倫理の課題について、現場の事例も交えて議論を深める。
	病態学特論	本講義は次の項目に沿って授業と研究指導が行われる。1) 解剖学・組織学・病理学の基礎と臨床を学ぶ。2) 疾病の病態や研究目的に対応した方法論を用いて形態研究や臨床研究の指導。①小分子生理活性物質に対する抗体の作成法。②各生物材料の形態学、発生学、分子生物学の解析方法。③共焦点レーザー顕微鏡および電子顕微鏡を用いて高解像度のイメージと三次元情報の再構築法。
	臓器関連学特論	本講義においては、ヒトの生理における腸内細菌の機能、臓器関連、特定の臓器の機能低下が他の器官の機能に影響を及ぼす例などを示しながら、医療専門職として既に習得している人体の正常構造と機能に関する知識を臓器関連という軸で整理し、洗練させ、自らの研究や臨床業務、日常生活に活かす姿勢を確立することを目的とした講義を行う。腸内細菌のはたらき、自律神経のはたらき、ストレスやストレスコーピング、ストレスレジリエンス、病は気から、などのキーワード・キーフレーズに関心がある学生に受講して欲しい。受講者の解剖学や生理学などの知識の深度は問わない。それぞれの現在の知識を深める姿勢をもって、講義に参加していただきたい。
放射線情報学分野	診療放射線研究方法論	この科目では、診療放射線技術に関連した研究の基盤として、研究デザイン、研究目的および研究計画書の作成方法について概説する。これにより各自の研究課題に適切な研究方法を選択できる力を身に付ける。また、論文検索の仕方や実験の進め方、学会発表のためのスライド作成の仕方とルールについて説明する。この科目の到達目標は、授業成果として、受講者が指定された課題について作品（スライド・研究計画書）を作成し発表できることである。
	画像処理特論	本講義は、診断に利用する医療画像について、入力から処理アルゴリズムまでを理解することを目的としている。画像情報処理といっても、その基本となるデジタル画像処理の方法について講義する。具体的には画像の数学的表現、画像の標準化と量子化、階調変換、直交交換、フィルタリング処理、医用画像のセグメンテーションなどについて講義する。画像処理に必要な知識・画像処理システム・画像解析ソフトの理解を目的とする。

	授業科目の名称	講義等の内容
放射線情報学分野	核医学特論	核医学検査法の特徴は、種々のトレーサを用いて生体の機能を反映する画像が得られることである。とりわけPETを用いた機能画像では定量的測定精度がすぐれている。しかし、PET検査ではサイクロトンなど巨額設備が必要で日常診療には限界がある。一方、SPECTを用いて機能画像の定量化を行えば日常診療にきわめて有用であり、核医学検査法としての診断精度の向上につながる。 定量化に必要なSPECTやPET装置の基礎知識、臨床では脳神経系と循環器系の定量化とその有用性について講義する。
	画像解剖学特論	画像診断の基礎となる各器官系の正常構造と機能を深く学習、理解すること、正常構造の学習を基礎にして、実際の臨床例を専門家の指導のもと観察する経験を重ね、画像情報に関する科学的な分析力、診断力を高めることを目的とした授業です。診療放射線技師を初めとする画像診断に関わる医療技術者に画像解剖学、画像診断学に関する最先端の知識と技術を習得し、その基盤となる正常構造の知識を復習し、深めて欲しいと考えています。
	診療放射線教育学特論Ⅰ・Ⅱ	診療放射線技術における人材育成が質の高い診療放射線技術の基礎をなすという観点から、教育的機能の基本を理解し、診療放射線技師教育の歴史の変遷、技師教育制度について概説する。また、実践診療放射線技師職としての役割を果たすために必要な教育原理や教育方法を概説し、専門職種としての自己教育力や生涯教育力を備えられるようにする。授業内で、受講者が選択した授業課題の指導計画・指導案を作成し、模擬授業を実施し、授業実施者としての課題を明確にする。
	キャリア・リーダーシップ開発特論	より良い医療を提供するため診療放射線技師専門職の果たすべき役割としてのリーダーシップを修得することを目的とする。この科目ではキャリアデザイン、リーダーシップとは、リーダーに必要なレジリエンス、焦りをコントロールするリーダーシップなどについて説明する。事例ワークショップを通してリーダーシップを実践するために必要な知識、問題解決能力、調整能力、リーダーとしての意思決定・発信力などの能力を修得する。
	放射線生体応答学特論	放射線は医療分野において、画像診断、がん治療に応用されている。しかし、放射線被ばくによる生体への悪影響が懸念される。さらに原子力発電所事故やテロの脅威により放射線被ばくへの関心は高まっている。本講義では、以下の項目について講義と研究指導を行う。1)放射線による生体応答反応を概説する。2)放射線被ばく防護・緩和に関する知識を習得する。3)生体応答反応を生化学的に解析する技術を習得する。
医療栄養学分野	病態栄養学特論	最初に人体の主要各臓器における栄養素の代謝過程を概説し、次に健全な状態にあるときと、病態時における栄養素代謝の異なりについてを疾患別に見てゆく。具体的には次のような内容を講義する。1)五大栄養素の主要臓器組織における代謝 2)肝および腎疾患の病態と治療時における栄養素代謝の変化 3)循環器系疾患の病態と治療時における栄養素代謝像の変化 4)糖尿病の病態と治療時における栄養素代謝像の変化 5)循環器系疾患治療に大きな影響を与える栄養学的問題点 6)外科治療における栄養学的問題点 7)まとめ
	機能性高分子特論	動物の細胞には、細胞骨格や細胞接着装置といった、複数のタンパク質から構成される超分子構造が存在する。これらの超分子構造は、細胞の移動・増殖・分化・がん化などに際してダイナミックに解体や再構成が行われる。本講義では、超分子構造および細胞外マトリックスを構成するタンパク質および多糖の構造と機能についての講義を行い、超分子構造に対する理解を深める。また、関連する論文を講読してこの分野の近年の進歩を学習する。

	授業科目の名称	講義等の内容
医療栄養学分野	生体化学特論	糖質、タンパク質などの生体高分子の構造や化学反応、分子間の会合や分子認識などナノバイオプロセス学について理解を深める。さらに生物を模倣した(あるいは超える)、多彩な機能分子を集積した超分子の世界について、超分子自己集合(らせんやカテナン構造)や分子マシン(分子シャトル、分子ボールベアリング)などの非生物的システムについて概説する。また生体成分や分子集合体、複合体の分析法、構造決定に必要な手法と原理について講義と演習を行う。
	内分泌代謝栄養学特論	本特論では、糖尿病をはじめとする代謝異常性疾患に関して、栄養素と生体の相互作用、病態発症と栄養との関連を中心に生化学的、分子生物学的視点から講述する。概要は次のとおり。①糖尿病について ②糖尿病治療における栄養素の役割 ③脂質異常症について ④脂質異常症治療における栄養素の役割 ⑤肝炎について ⑥肝炎治療における栄養素の役割 ⑦糖取り込みの分子機構 ⑧その他の代謝異常性疾患について
	分子・細胞栄養学特論	栄養素による疾患に対する進行抑制効果発現の分子・細胞生物学的メカニズムを、ヒト検体、ヒト由来培養細胞、疾患モデル動物、細胞内小器官、細胞を構成する各種分子等を用いて研究する方法とコンセプトを講義する。これらのバイオアッセイ系を学ぶことで、研究現場で食品成分の効果をスクリーニングするための基礎知識と基本的技術を習得する。
	公衆栄養学特論	人間集団の健康増進と疾病予防のためには、人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするヘルスプロモーション活動が必要不可欠である。そこで本特論では、公衆栄養の視点から地域社会における健康・栄養問題とそれに関連する自然、社会、経済、文化的諸要因の情報を収集・分析し、科学的エビデンスに基づいたヘルスプロモーション活動に資する企画立案できる能力を養う。さらに、関連する組織や専門職種と連携して社会に貢献できる栄養の専門職の指導者を目指す。
臨床検査学分野	臨床検査学特論	検査データの解釈時に利用される基準範囲・病態識別値・カットオフ値の特徴、外部及び内部精度管理法による検査結果の品質保証の仕方を説明する。さらに、各種疾患の診断及び治療経過を追う上でどのような臨床検査が実施され、得られた検査結果がどのように解釈されるかなどを、検査全般に亘って解説する。
	臨床化学分析特論	臨床化学検査の標準化体系を紹介し、今日の臨床検査の精度が国際的にどのようにして保証されているかを説明する。そして、血清や尿中の糖・脂質・含窒素成分・酵素・無機質・電解質など種々の成分の定量法を説明し、分析前及び分析時に発生する問題点を解説する。
	免疫生物学特論	私たちが健康を維持するためには、生体外から侵入する異物や生体内で生じる異常細胞や老廃細胞を排除することが必須ですが、それを行う生体機構が免疫システムで、この免疫システムを探る学問が免疫学であります。本講義では、抗原、抗体、補体といった免疫学の基本的事項及び生まれながら持つ免疫能力(自然免疫)と生まれた後に得る免疫能力(獲得免疫)の違いを含めて、免疫システムの概要についてまず解説します。そして免疫システムを構築する免疫細胞の機能と役割および情報交換方法について詳しく学びます。さらに、感染免疫、腫瘍免疫に加え、アレルギーや自己免疫疾患、免疫学的検査法および免疫学的治療法といった臨床免疫学について解説すると共に、栄養や運動と免疫との関わりについても触れます。
	分子遺伝学特論	分子遺伝学とは、基本的にはDNAとRNAの2種類の核酸の相互関係とそれらのタンパク質(ポリペプチド)合成との関わりについての学問である。本授業では、先ずゲノム・遺伝子とその本体である核酸について解説します。次に遺伝子の複製と発現機構に関して解説します。そして遺伝子と疾患の関係や遺伝子の診断・治療について解説します。さらに分子遺伝学的研究手法について解説します。

	授業科目の名称	講義等の内容
臨床検査学分野	臨床血液検査学特論	臨床血液検査学では、血液疾患の病態生理を分子病態学の面から検査・解析し、臨床医学への実用的応用に寄与することを目的とする。本講座では、血液および血球の成熟と機能に関与する造血組織、さらに日常よく行われる血液学的検査所見について講義・演習を行う。また、止血機構は、脊椎動物に備わった生命維持に必須の防御システムであるが、その破綻から近年、増加傾向にある心筋梗塞・脳梗塞に代表される血栓症について、血栓形成のダイナミックな変化を学習し、出血傾向・血栓傾向の病態生理、検査、診断・治療について講義・演習を行う。
	病理組織検査学特論	がんについて病理組織学的知識を基礎に多角的視点から学ぶ。良性腫瘍、悪性腫瘍、炎症や先天性疾患等についてのあらゆる疾患を病理組織学的、細胞学的に解明する。疾患に関する用語・概念の習得、理解が必要である。各臓器の系統ごとに、病態がどのような疾患を引き起こすのかにつき具体的に学習する。たとえば、肉眼的、組織学的、細胞学的、遺伝子といった細胞レベルの原因を探究する。腫瘍の持つ組織構築がどのような意味があるのかを認識して疾病の持つ特殊な病態を把握する。
	分子細胞病理学特論	分子細胞病理学特論では、腫瘍の発生ならびに増殖、浸潤・転移などの腫瘍進展に関わる分子異常や遺伝子異常について説明をする。また、病理検体・細胞診検体から遺伝子異常を検出・解析する技術(Fluorescence in situ hybridization法、レーザーマイクロダイセクション、NGS解析など)について解説する。
	細胞診検査学特論	良性腫瘍、悪性腫瘍、炎症性変化等の細胞形態を理解して確定診断へと導くことを目的とする学問である。細胞は核内の遺伝子の傷やウイルスの侵入、ホルモンの影響によりさまざまな形態に変化する。その変化を顕微鏡下で正確にとらえることで炎症の程度、感染症の有無、がん診断が可能となる。また、がんになる前段階である異型細胞も判定可能であり、前がん病変として細胞診断することができる。婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺、甲状腺などの領域における病理組織像と細胞診像の形態を理解して疾病との関連性を把握する。
	細胞診検査診断学実習	細胞診は泌尿器領域の尿、呼吸器領域の喀痰のように自然排出される検体と乳腺、甲状腺などから穿刺吸引して得られる検体とがある。採取された細胞を塗抹、固定、染色して細胞診標本が作成される。細胞検査士は顕微鏡下で細胞診標本をスクリーニングして良悪を判定して質的に細胞判定する。実習では各臓器の細胞診標本作成方法、スクリーニング方法、質的診断同定法を中心に学ぶ。
	細胞診画像診断学特論	体内に潜んでいる細胞は、各臓器に特徴的で、例えば、喀痰は、気管支、肺由来の細胞が剥離され、尿中には膀胱由来の細胞が自然排出される。よって、人体の臓器にウイルス感染、遺伝子異常が存在すると、その疾患の臓器に反映された細胞が細胞診検体として排出される。細胞診検体のPapanicolaou染色を行い、顕微鏡で写真撮影した画像の正常細胞、異型細胞、がん細胞等の細胞学的形態を正確に理解する。
理学療法学分野	運動制御学特論	運動制御の要となる神経筋機能の理解は、機能評価の他、治療効果の判定にも有用である。電気生理学的手法の中には非侵襲的なものも多く、理学療法士にも計測可能である。しかし、臨床応用においては計測、分析とも理論的背景の理解と十分な経験が要求される。本講義においては、①電気生理学、神経生理学の理解、②計測技術の習得、③臨床家のための波形信号処理の基礎の理解、④ソフトウェアによる信号処理技術の習得を目的とし、臨床研究に役立てることを目的とする。
	臨床生体力学特論	運動障害のメカニズムを理解し、理学療法に応用するために、モーションキャプチャ等の手法の習得は有効な手段である。本講義では、①モーションキャプチャの原理、②床反力計、圧力分布計による運動力学計測、③逆運動力学解析手法による関節モーメント、筋張力の推定法について教授する。

	授業科目の名称	講義等の内容
理学療法学分野	臨床生体力学特論	さらに、臨床でも独力で計測が可能となるよう、実験、演習を実施する。加えて、計測結果の解析演習を行い、臨床研究力を高めることを目的とする。
	運動機能障害学特論	四肢・脊柱の関節運動機能障害に対して、根拠に基づく実践的な理学療法を施行するために必要な科学的知識、分析能力の獲得を目的とする。学習にあたっては解剖学・運動学・神経生理学的知識が必要となる。関節運動機能障害に対応していくために必要な機能解剖学的分析、拘縮・疼痛メカニズム解明、理学療法介入の効果検証をテーマとし、各テーマの臨床的な問題提起に対し、文献検索、批判的吟味のステップで問題点に対応する方法を学ぶ。
	理学療法メカノバイオロジー特論	力（機械刺激）が深く関わる生体現象のうち、理学療法分野にとくに関連するものについて、生物学の視点で理解を深める。機械刺激に対する組織・細胞レベルの応答に着眼する。現象の例として、運動による筋肥大や萎縮予防、あるいは骨密度の維持・向上がある。数回の講義の後、演習（調査、発表、議論）を中心に進める。
	徒手理学療法学特論	四肢・脊柱の関節運動機能障害に対し徒手理学療法を施行するために必要な各検査・治療手技の基礎知識の獲得を目的とする。 学習にあたっては解剖学・運動学・神経生理学的知識が必要となる。講義だけでなく演習・実習を通して徒手理学療法について学ぶ。
作業療法学分野	作業療法理論学特論	作業療法では様々な理論を用いて治療が行われている。本科目では、この作業療法の理論がどのように生まれてきたのかを歴史の変遷をもとに学習し、そのいくつかの作業療法の理論について説明を加え、理論の特徴、考え方、患者への適応などを理解する。さらにそれぞれの理論を作業療法の対象とする事例に応用し、臨床現場で治療に用いることができるモデルを作成する。
	作業活動生体反応学特論	本科目では、作業活動が生体にどのような影響を及ぼすのかを自律神経および主観的心理反応において概説する。加えて、作業活動の自律神経系に対する効果器の反応について学習し、その反応と作業活動の関係を理解する。また、主観的心理反応についても作業の影響を検討する方法について説明する。これらの反応をみることにより作業活動がどのように作業療法の治療に応用ができるかを検討する。
	作業機能障害支援学特論	作業療法士特有の臨床思考過程において、作業機能障害を捉える視点は欠かせない。作業機能障害、作業的公正、作業的不公正についていま一度振り返り、知り、臨床における対象者への適応を考える。また、作業機能障害と人の健康との関連性に関する研究について解説し、さらに演習を通じて、作業機能障害を支援する視点を養う。
医療福祉学分野	医療福祉経営学特論	医療福祉分野・事業における以下の項目に関して、講義と事例研究・実態調査や経営分析等を通して、医療福祉事業の経営実践に向けた知識技能を修得し、経営管理者の即戦力育成を目指す。（１）社会保障制度内容とその背景・動向①医療・保健②医療保険③年金保険④社会福祉（２）財務管理・会計管理①財務分析とその手法②財務会計論と管理会計論（３）人事労務管理①人事管理論②労務管理論（４）組織運営・情報管理①組織論②コンプライアンス・法令遵守③情報システム論④リスクマネジメント（５）マーケティング①マーケティング理論②市場分析（６）経営戦略論
	福祉専門職特論	社会福祉実践に従事するソーシャルワーカーは、職業上において専門的職業従事者として位置づけられている。ソーシャルワーカーが職務を遂行するにあたって、専門職は、どのような特性をもっているかを正しく理解することが重要となる。本授業では、一方では職業としての専門職の特性、

	授業科目の名称	講義等の内容
医療福祉学分野	福祉専門職特論	<p>成立条件や成立過程などを学び専門職理解を図ることを目標とする。また、他方では、ソーシャルワーカーが専門職として、その資質向上を図るために必要な人材育成の方法を学ぶとともに、将来ソーシャルワーカーを目指す学生に対して実習を通じた教育・指導方法を学んでいく。さらに、人材育成のためのプログラムを実際に作成し、その内容について精査していく。</p>
	医療福祉学特講	<p>本科目においては、人の人生に突然襲ってくる「疾病」や「障害」に対するソーシャルワークの専門性について学ぶことを目的とする。「疾病」や「障害」は、その当事者や家族を計り知れないほどの苦しみに直面させるものであり、さらに「死」は人間の生命のはかなさを家族に突きつけると共に、すべてが無に帰することの寂しさと孤独を感じさせる。</p> <p>本科目においては、このような局面に対して解決の糸口を探りながら共に歩む専門職「医療ソーシャルワーカー」に焦点を当てて学びを深めることにする。</p> <p>具体的には以下の内容について学ぶこととする。①患者にとって「病」とは何か、②専門職に求められる人間観、③入院・受療支援、④退院支援、⑤チームアプローチ、⑥多職種連携・協働による支援、⑦組織間連携、⑧ネットワーク、⑨医療機関の機能、⑩社会保障制度・関連法制度ほか。</p>
	地域包括医療・福祉特論	<p>保健医療サービスを要する人々を地域で生活・人生を営む主体者としてとらえ、全人間的医療の担い手の一員として、保健医療ソーシャルワークの在り方を希求する。地域における生活の主体者の尊厳ある人生を支援する価値を身に着け、保健医療ソーシャルワーカーとしてのマイクロ支援から保健医療・福祉・教育・司法の様々な分野との連携・協働の方法、政策の在り方に対する検討まで、メゾマクロ・マクロ支援についての研究を行う。</p>
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	<p>公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。医療・保健機関で心理専門職として働くために必要な基礎知識を習得し、チーム医療を実践するための基本的な医学知識や他の専門職に関する知識および支援の実際と他職種との連携について学ぶ。特に、精神医学の知識(精神疾患の特徴、薬物療法、心理療法など)を学び、重要な諸問題について討議し、理解を深め、臨床場面で対応できるようになることを目標とする。</p>
臨床心理学分野	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	<p>公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な必修科目である。福祉分野の対象となる子ども、障害児(者)、高齢者の心理に関する基本的な知識や理論を学び、彼らへの支援及び他の専門職(行政職、医師、教師等)との連携について具体的な事例を通して学ぶ。</p>
	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	<p>公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。スクールカウンセラーや大学カウンセラーなど教育分野で働く心理専門職として必要な基礎知識を習得し、児童(生徒・学生)および保護者への支援と他職種(教師、医師、行政職員など)との連携について具体的な事例を通して学ぶ。</p>
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と実践)	<p>公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。非行や犯罪が生じるメカニズムと更生のメカニズムについての基礎知識を学び、支援と他職種との連携について具体的な事例を通して学ぶ。また、犯罪者の心理だけでなく、被害者の心理、家庭内紛争にある子どもや家族の心理についても学び、彼らへの支援についても学ぶ。</p>
	産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	<p>公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。労働関連法規や産業保健など産業・労働分野に関する理論や知識を学び、過重労働やハラスメント、リワークなどこの分野で心理職の関与が必要な問題と支援について具体的な事例を通して学ぶ。</p>
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	<p>公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。支援を求める者に関わる家族やコミュニティ(家族・学校・職場等)も視野に入れたアセスメントと支援の方法について具体的な事例をもとに学ぶ。また、離婚や再婚に伴う多様な形態の家族やシングル家庭等、近年新たに生じてきた家族形態が抱える問題とその支援についても学ぶ。</p>

	授業科目の名称	講義等の内容
臨床心理学分野	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。本講義では、メンタルヘルス不調の予防や、ストレスへの気付きと対処の促進といった「心の健康教育」に関連する理論と知識を学ぶ。また、保健医療・教育・福祉・産業等のさまざまな分野において、「心の健康教育」を実践する上で必要なスキルを実習形式で学ぶ。
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	公認心理師及び臨床心理士受験取得に必要な科目である。クライアントや患者を理解するため心理的アセスメントは心理臨床場面で非常に重要である。心理臨床場面で使用するアセスメント方法、各種心理検査(アセスメントツール)作成の理論的背景、使用方法、分析方法など基礎知識の獲得を目的とする。学習にあたっては心理臨床場面において独力で査定が可能となるよう、演習を通して心理検査の種類、基本的知識、使用する際の基本的技術、それらの記録、結果の解釈、報告書の作成を習得する。
	臨床心理査定演習Ⅱ	臨床心理士受験資格に必要な科目である。心理臨床の実践の場でよく使用される心理検査の実施および分析方法、フィードバックについて具体的な事例をもとに学ぶ。(事例を紹介しながらより実践的に学ぶ)
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	公認心理師及び臨床心理士受験資格に必要な科目である。心理支援の実際について学ぶ。インテーク、治療の開始、クライアントの心を理解するための理論、カウンセラーの取るべき態度、心理療法の過程、子どもの心理療法等について学ぶ。(心理面接の基礎) (公認心理師) ①力動論に基づく心理療法の理論と方法と実践 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ③その他の心理療法の理論と方法 ④心理に関する相談、助言、指導等への上記1から3まで応用 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
	臨床心理面接特論Ⅱ	臨床心理士受験資格に必要な科目である。心理臨床の現場でカウンセリングを実践するために必要な知識と技術を身につける。実際に出会う可能性のある事例を想定し、見立て・心理療法の導入・心理療法過程を理論的実践的に学ぶ。
	臨床心理学特論Ⅰ	臨床心理士受験資格に必要な科目である。心理療法にはさまざまな学派やアプローチがあるが、実際の臨床場面においては、クライアントの特性や状況、セラピストの個性にあわせて、さまざまな理論や技法を統合して対応している。それぞれの現場やクライアントに適したアプローチを実践することができるようになるための基礎を学ぶ。
	臨床心理学特論Ⅱ	臨床心理士受験資格に必要な科目である。本講義では、保健医療分野で働く心理職に求められる知識と役割を学ぶ。身体疾患を抱える患者とその家族の心理について理解を深めるとともに、患者・家族(遺族)に対する心理社会的ケアや、対人援助職に求められるコミュニケーションスキル、多職種と協働するチーム医療について学ぶ。
	臨床心理学研究法特論	臨床心理士受験資格に必要な選択科目である。臨床心理学の代表的な研究法として事例研究について学ぶ。事例研究の果たす役割、形式、テーマの立て方、考察の進め方などの基本について学ぶと同時に、自ら担当したケースを事例研究としてまとめる上での注意、倫理についても学ぶ。
	人格心理学特論	臨床心理士受験資格に必要な選択科目である。将来心理専門職として臨床心理学的援助を行うにあたり、各種心理検査(質問紙法検査、投影法検査等)についての実施法だけでなく、成り立ちや背景となるさまざまな人格理論を学ぶことを通して修得することを狙いとする。さらに、人格心理学に関する近年の主な研究テーマについて、国内外の文献講読を通して理解を深める。

	授業科目の名称	講義等の内容
臨床心理学分野	投映法特論	臨床心理士受験資格に必要な選択科目である。ロールシャッハ・テスト、TATなど投映法心理検査の理論的背景と技法の修得を目的とする。被験者の人格の特徴や問題点を把握することは支援の目標や道程を計画する上で欠かせない作業であり、心理実践の基礎となる学習である。
	心理療法特論	臨床心理士受験資格に必要な科目である。本科目では、心理療法のうち主に認知行動療法を取り上げ、その前提となる理論的背景にはじまり、アセスメント、ケースフォーミュレーション、主要な介入技法について学ぶ。また、気分障害、強迫性障害、不安障害、不登校・ひきこもり、PTSDに対する認知行動療法の具体的な進め方を紹介し、心理臨床の実践に必要な基本的知識の習得を目指す。
	臨床心理基礎実習	臨床心理士受験資格に必要な科目である。臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を行う。臨床心理学の理論と方法を実践にいかすための基礎的なトレーニングを実施し、心理専門職として活動するために欠かすことのできない素養や技能を学習する。なお、この授業の単位取得は鈴鹿医療科学大学附属こころの相談センターの研修相談員の条件となるので、必ず1年次に履修すること。
	臨床心理実習Ⅰ	臨床心理士受験資格に必要な科目である。2年次に開講される。本学附属こころの相談センターにおける実習と、大学外の実習協力施設における実習を行い、それについてまとめることを学ぶ。ケースカンファレンスで発表したり参加することも経験する。
	臨床心理実習Ⅱ	臨床心理士受験資格に必要な科目である。2年次に開講される。本学附属こころの相談センターにおける担当ケースや学外施設での実習に関して、個別スーパービジョン、グループスーパービジョンなど多様な指導を受け、実践に関する学びを深める。
	心理実践実習A (相談センターでのケース,SV)	公認心理師受験資格に必要な科目である。大学附属こころの相談センターにおいて、実際にケースを担当し、心理検査や心理療法を行い、スーパービジョン(SV)を受ける。
	心理実践実習B (GSVとケースカンファレンス)	公認心理師受験資格に必要な科目である。こころの相談センターにおいて担当したケースについて、グループスーパービジョン(GSV)を受けたり、ケースカンファレンスで発表したりする。ケースについてまとめることができること、様々な視点から観ることができるようになることを目指す。
	心理実践実習C(外部実習)	公認心理師受験資格に必要な科目である。学外施設(医療、教育、福祉施設)での心理的な支援を求める人への関わりを行う。施設内の見学や陪席などを通して、医療・教育・福祉・司法など幅広い領域における心理的な支援や多職種連携、地域連携について学ぶ。
	心理統計法特論	臨床心理士受験資格に必要な選択科目である。医学・医療分野では決定論的な結論を導くことが困難な場合には、データを統計的方法で分析して結論を求めることが多い。本講は既に学部で基礎統計学を学んだことを前提により深く、統計基礎と医学応用を中心に学ぶ。基礎では、確率変数と分布、大数の法則、中心極限定理、近似表現、推定理論と検定理論にスポットを当て、統計の考え方を理解することに重点を置く。医学応用では、標本の大きさデザイン、分散分析ANOVA、臨床試験と疫学における利用について理解する。医学・医療で使う統計手法を理論と応用の両面から修得する。

	授業科目の名称	講義等の内容
臨床心理学分野	臨床心理学研究法特論	臨床心理士受験資格に必要な選択科目である。臨床心理学分野の様々な研究について学んだ後に、実践研究として代表的な事例研究について詳しく学ぶ。事例研究の果たす役割、形式、テーマの立て方、考察の進め方や自ら担当したケースを事例研究としてまとめる上での注意点、倫理について学ぶ。
	人格心理学特論	臨床心理士受験資格に必要な選択科目である。代表的な人格検査であるMMPIを中心に人格の構成概念を理解し、指標の構成から人格像を描くプロセスを学ぶ。それらを所見としてまとめ、本人へのフィードバック資料や医療職への情報提供書の作成についても学ぶ。
臨床工学分野	生体信号処理特論	心電計、超音波診断装置などの生体計測機器では様々な信号処理技術が用いられている。また生体システムの解析においても信号処理は重要な役割を担っている。本講義では、生体信号処理について基礎から最近の研究例までを解説する。主な内容は、生体システムと生体信号、フーリエ変換、不規則信号、線形システム、信号のデジタル処理、スペクトル推定、時間-周波数解析、適応信号処理、生体システムの解析、最近の研究事例紹介である。
	肺循環機能学特論	肺循環に関して、現在の呼吸生理の基礎についての知識を確認し、頻用されている、主に肺血管形態、機能に関する実験手法について紹介する。また、それらを用いた実験結果から、肺循環の特徴についての理解を深め、肺血管機能に異常を来す病態について理解する。
	電気生理学的治療機器特論	循環器領域では、不整脈、心不全の治療に電気生理学的治療機器が欠かせない。本講義では、心臓電気生理学の基礎を学んだ上で、ペースメーカーやICD、CRTの適応疾患、関連心電図の基礎を修得する。その上で、ペースメーカー、ICD、CRTの構造、動作、トラブルシューティングについて基本的事項を修得する。また、関連する循環動態の変化についても修得する。実際に使用されるペースメーカープログラムを使用したデモンストレーション、各種設定の基礎、ペースメーカー心電図についても学ぶ。
	生体システム工学特論	生体システム工学、或いはシステムバイオロジーの内容は多岐にわたるが、その中から臨床工学に関連が深いと考えられる、呼吸・循環・代謝系への数理生理学的なアプローチについて講義する。微分方程式による連続時間システムの記述、位相平面を用いたシステム解析といった、初学者にも平易な方法を用いて、呼吸・循環・代謝系の理解を深めることが目的である。
	医用電気・電子工学特論	近年の医用計測機器、治療機器のほとんどは電気・電子回路技術を応用している。これらの機器を開発する者のみならず、使用者にとっても電気・電子工学の基礎知識は重要である。工学分野の出身でなくとも電気・電子機器に親しみが持てるように実践的な講義を行う。
医療情報実践学分野	医療情報システム特論	医療情報システムの設計開発プロジェクトのマネジメントをその基礎知識体系（PMBOK）に従って教育していく。基本事項の説明の後、具体的な開発事例を取り上げ、ブレインストーミング形式で総合討論する形で深く理解する形式をとる。
	画像認識システム特論	画像認識システムを自作のプログラムにより開発できる能力を身につけるための教育を行う。具体的には大量の画像形式のデータを対象に解決すべき課題を抽出し、抽出した課題を解決するために、多様な事前知識をアルゴリズムとして組み入れ、独自のシステムをプログラミング言語により構築する。そして、実データでシステムを評価し、社会実装する方法を身につけることを目指す。

	授業科目の名称	講義等の内容
医療情報実践学分野	データ解析学特論	<p>医療分野における実データの多角的な解析スキルを身につけるための教育を行う。基本統計量、多変量解析、仮説検定などについて、その理論背景を学ぶとともに、エクセル等による実習を通じて、統計手法や統計的検定に対する理解を深めるとともに、実用スキルを身につける。また、機械学習やクラス分類など、人工知能手法を用いたデータ処理手法について学ぶ。</p>

	授業科目の名称	講義等の内容
鍼灸学分野	鍼灸臨床技術学実習Ⅰ	本科目では、鍼灸医療の現場で求められる問診技術・病態把握・治療計画策定・安全性管理・倫理性・生活指導などの実践的な臨床技術の習得は元より、臨床における資質を網羅的に訓練することを目的とする。鍼灸臨床技術学実習Ⅰでは、主に中国伝統医学に基づいた診療が行えることを目標とする。
	鍼灸臨床技術学実習Ⅱ	本科目では、鍼灸医療の現場で求められる問診技術・病態把握・治療計画策定・安全性管理・倫理性・生活指導などの実践的な臨床技術の習得は元より、臨床における資質を網羅的に訓練することを目的とする。鍼灸臨床技術学実習Ⅱでは、主に現代医学に基づいた診療が行えることを目標とする。
	鍼灸臨床技術学実習Ⅲ	本科目では、鍼灸医療の現場で求められる問診技術・病態把握・治療計画策定・安全性管理・倫理性・生活指導などの実践的な臨床技術の習得は元より、臨床における資質を網羅的に訓練することを目的とする。鍼灸臨床技術学実習Ⅲでは、症例報告が行えることを目標とする。
	鍼灸技術学特論	鍼灸技術の科学化の方法論と実際の応用例について学ぶ。基礎技術では①クリーンニードルの開発、②鍼レオメータの開発、③刺鍼練習台の開発、④超音波診断装置の応用による生体内刺鍼部位の画像化、⑤触診技術の客観化について、臨床技術では①絶縁鍼の開発、②皮膚インピーダンス測定技術と経穴、③灸燃焼温度の測定技術、以上より医用工学、画像工学を鍼灸技術の修得に取り入れた場合、触覚でしかつかめなかった技術を可視化でき効率的な技術修得が可能となることを理解する。
	実験鍼灸学	実験鍼灸学は現代科学技術および実験方法を用いて、鍼灸の基礎理論・メカニズムなどを研究し、臨床実践に資する学問である。本講義で、実験鍼灸学における基本的な研究方法を解説したうえで、経絡・経穴の現代研究方法、刺鍼手技・灸の研究方法を中心に講義する。また、パルス、電熱鍼、レーザー鍼など特殊な鍼灸療法の特徴・操作法・効能について学ぶ。また神経系、循環系、免疫系、消化系、内分泌系における鍼灸の作用機序と現在の研究動向について修得する。実験動物の経絡および経穴についても紹介する。

	授業科目の名称	講義等の内容
看護学分野	看護理論	看護に関連した現象を意図的かつ体系的に表現している看護理論は、看護実践をよりよいものにするために活用される。このことを理解し、メタ理論、大看護理論、中範囲理論、実践理論について学習し、実際の現象（事例）の看護過程を展開するなかでどの看護理論を活用するかを探究する能力を修得する。
	看護研究方法論	看護の発展に寄与するために研究の意義と重要性を理解し、看護学研究のプロセスである文献検索方法、看護研究方法の種類と量的・質的研究の特徴、研究計画から発表までのプロセス、研究者としての責任や倫理的配慮を修得する。また、自らの研究課題に最も適した研究タイプや研究方法を選択できる能力を修得する。
	看護倫理	看護倫理の原則を学習し、看護学としての生命、個人の尊重、人間の尊厳とは何かを考えながら、多様な看護場面における看護専門職の倫理的感受性を高める。また、実際に自らが経験した事例を分析して、看護専門職としての倫理的役割を果たすために必要な倫理的意思決定の過程や多職種間の倫理的調整を行うための能力を修得する。
	リーダーシップ特論	組織や集団における一般論的なリーダーシップについて理解し、より良い医療を提供するため看護専門職の果たすべき役割としてのリーダーシップを修得する。事例を通して、リーダーシップを実践するために必要な知識、問題解決能力、調整能力、リーダーとしての意思決定・発信力などの能力を修得する。
	ヘルスアセスメント特論	人々の健康状態を看護学の視点から客観的・主観的に明らかにし、日常生活や社会生活にどのような影響を及ぼしているかについてアセスメントするための知識・技術・態度を修得する。
	看護実践教育学特論	看護専門職の継続教育の考え方と方法について理論的根拠に基づいて学習し、医療機関、教育機関において教育的役割を担うために必要な能力を修得する。具体的には、看護学教育の歴史と現状の把握、現行の看護人材育成プログラムのクリティークを通して、課題を明らかにする。さらに、看護教育のカリキュラム編成、院内教育プログラムの立案過程や指導方法、評価方法について理解し、看護専門職者として教育的機能を果たすための自己の課題を論述する。
	看護実践支援特論	専門看護学分野における看護実践を通して抱いた臨床疑問に関連する先行研究を抄読し、問題解決や効果的な支援につながるエビデンスを明らかにする。またこれらのエビデンスを実践と研究に適用する方法を探究する。
	看護実践支援演習	各看護学における看護問題の分析および解決に向けた効果的な支援に活用できる理論や方法論を学び、自身の専門領域における課題の分析と支援計画の立案を行う。また理論と実践を統合し、臨地場面でより質の高い看護実践を提供するために、看護専門職の指導的役割について考察する。
	看護実践支援実習	各看護学において対象者の複雑な看護問題や教育的課題を把握し、理論や先行研究を基盤とした課題の分析と自己の研究課題に応じた実習計画の立案を行い、看護援助を実施・評価して、研究的視野を広げる。

	授業科目の名称	講義等の内容
専攻 共通	医療科学輪講(修士)	在学期間を通して少なくとも4回、大学院担当教員と全大学院生を対象とした発表会でプレゼンテーションを行う。2回は指導教員の指導の下で、修士論文研究にかかわる原著論文または総説(英文が望ましい)を選び、その内容を紹介する。あとの2回は修士論文研究の計画・進捗状況・研究結果・考察等について報告する。全学生の必修とする。
	医療科学特別研究(修士)	在学期間を通して指導教員の下で調査や実験を中心とした研究を行い、その成果を修士論文としてまとめて発表する。研究課題は、各自の主分野及び分野共通の大学院担当教員の指導研究課題リストの中から選択し、入学願書に希望を申告する。入学後、協議によって指導教員と研究課題を決定する。大学院担当教員と全大学院生を対象とした発表会での発表をもって修士学位論文の審査とする。全学生の必修とする。

医療科学研究科 医療科学専攻 研究指導教員一覧 (教員は変更になることがあります)

分野	職名	教員名	① 専門
			② 研究指導課題名
分野共通	教授	太田伸生	①感染症学、免疫学 ②熱帯感染症の免疫理学的解析 感染宿主の栄養と感染感受性、免疫学的修飾に関する研究
	教授	有馬 寧	①解剖学、組織学、病理学 ②炎症関連発癌とその病態形成に関わる分子機構の研究 低分子生理活性物質の免疫組織化学的研究
	教授	岩崎泰正	①内科学 内分泌・代謝病学 分子生物学 ②生活習慣病関連遺伝子の転写調節および病態との関連
	教授	大西健児	①人獣共通感染症、輸入感染症 ②糸虫症の治療に関する研究、腸チフス・パラチフスの治療に関する研究
	教授	栃谷史郎	①解剖学、神経科学、胎児・新生児医学 ②母子関係を基盤とする神経発達学、腸内細菌を軸とする多臓器連関
	教授	村田真理子	①環境衛生学、予防医学 ②生活習慣病の発症機構の解明と予防に関する研究
放射線情報学分野	教授	武藤裕衣	①診療放射線技師教育学、診療画像技術学 ②人材開発と教育評価、各種撮像条件と画像評価、放射線被ばく管理
	准教授	山下剛範	①放射線環境学、放射線生物学 ②物質が放射線・化学物質影響を緩和・防護する分子機構の解明
	准教授	中舎幸司	①診療画像技術学 ②核医学検査および循環器領域に関する研究
医療栄養学分野	教授	三浦俊宏	①糖尿病学、栄養学 ②糖尿病モデル動物と栄養素の相互作用に関する基礎的研究 糖尿病運動療法と食事療法との併用に関する基礎的研究
	教授	若林成知	①有機合成化学、構造有機化学、超分子化学 ②自己集積型有機分子の設計・合成・物性ならびに自己集積化機構に関する研究 ケモセンサーとして機能するアズレン誘導体の合成・開発
	教授	棚橋伸行	①機能生物化学・食品加工学 ②食品廃棄物を利用した食品加工品の製造法の確立と食中毒などを抑制する食品成分の探索
	教授	山口太美雄	①腎臓病学、分子栄養学 ②食品成分による生体内効果発現機構の分子・細胞生物学的解析
	准教授	植松 淳	①細胞生物学 ②細胞接着装置の分子構築とそれらの構成タンパク質の機能の解析 細胞接着と細胞の増殖・分化・ガン化や組織構築との関わりの研究
	准教授	大槻 誠	①公衆栄養学、栄養疫学 ②ライフステージ別の健康増進における食と栄養に関する公衆栄養学的研究

分野	職名	教員名	① 専門
			② 研究指導課題名
臨床検査学分野	教授	森下芳孝	①臨床検査学、臨床化学 ②酵素・含窒素成分・糖・脂肪・電解質等の生体内成分の分析と定量法の開発
	教授	米田 操	①病理組織学 ②膵がんの細胞診断や予後判定に有用な細胞病理学的検査法の開発
	准教授	金山和樹	①分子病理学、病理検査学、細胞診検査学 ②がんの遺伝子異常と不均一性ならびに治療抵抗性を引き起こすメカニズムの解明、がんの遺伝子異常と細胞形態学的特徴に関する研究
理学療法学分野	教授	畠中泰彦	①バイオメカニクス、運動器系理学療法学、義肢装具学 ②運動器疾患の運動力学解析、運動学・運動力学手法による運動療法、装具療法に関する研究
	教授	浅田啓嗣	①関節運動学、徒手理学療法学 ②関節障害の発生と予防に関する研究 運動機能障害に対する理学療法の効果と臨床予測指標に関する研究
	准教授	笹井宣昌	①骨格筋の解剖生理学 ②筋肥大・萎縮、筋力の強化・低下予防等に関する基礎および臨床研究
作業療法学分野	教授	美和千尋	①精神障害の作業療法、作業療法の作業分析 ②作業療法のモデル適応と作業活動の生体反応に関する研究
	准教授	藤井啓介	①地域作業療法学、身体障害作業療法学、老年期作業療法学 ②予防的作業療法に関する研究、作業機能障害に関する研究、生活リズムに関する研究
医療福祉学分野	教授	藤原芳朗	①医療福祉学 ②医療福祉に関する理論と実践の研究、生と死に関する倫理の研究
	教授	松浦 信	①職業社会学、福祉社会学 ②社会福祉及び隣接領域における専門職化に関する研究 産業構造の変化にともなう職業の推移に関する研究
	教授	澤田 如	①老年学、社会福祉学 ②ケアの質の向上に向けた取り組み、介護負担

分野	職名	教員名	① 専門
			② 研究指導課題名
臨床心理学分野	教授	渡部千世子	①臨床心理学, 発達心理学 ②障害や難病をもつ子どもと家族の心理および関係発達, 心理検査 (TAT), 家族療法
	教授	大橋 明	①臨床心理学、高齢者心理学 ②高齢者に対する心理的支援・宗教性に関する研究、介護従事者に対する心理的支援に関する研究
	准教授	綾野眞理	①臨床心理学 ②臨床動作法を用いた心理支援に関する研究、学生相談、生殖心理カウンセリング
	准教授	中西健二	①臨床心理学、医療心理学 ②がん患者・家族に対する心理的支援に関する研究、臓器移植における心理社会的問題に関する研究
臨床工学分野	教授	丸山淳子	①呼吸循環生理学、環境生理学 ②肺高血圧症の病態生理と治療
	教授	伊原 正	①医用生体工学 ②高分子電解質膜を用いた生体用アクチュエータ
	教授	鈴木彰文	①医用生体工学、生体計測、生体信号処理 ②肺音、透析シャント音などの生体音の計測と信号処理 生体の力学特性、音響・振動特性の計測と解析
	教授	三浦英和	①電気・電子工学 ②人工臓器医工学
	准教授	高 英聖	①システム工学 ②数理最適化法とシステム生物学への応用
医療情報実践学分野	教授	鶴岡信治	①医療健康データサイエンス ②医療健康データ（文字、画像、数値）を対象とした人工知能または統計解析に関する研究
	教授	窪田英明	①医用画像処理 ②巡回セールスマン問題を遺伝的アルゴリズム等で解く基礎研究
	教授	内藤道夫	①医療情報学 ②多職種における情報教育の在り方に関する研究
	教授	吉川大弘	①医療健康データサイエンス ②統計的アプローチまたは人工知能手法による医療データ解析に関する研究
	教授	ブイニャン・ショエブ	①機械学習の応用と画像情報処理 ②生体信号等からの知的情報処理
鍼灸学分野	教授	浦田 繁	①鍼灸学、神経生理学 ②鍼灸刺激のストレス緩和作用、鍼灸の現状と需要調査
	准教授	川ノ口 潤	①脳神経科学、東洋医学、神経免疫学、基礎医学 ②東洋医学（漢方・鍼灸治療）を用いたうつ病等の神経・精神疾患の改善作用 東洋医学（漢方・鍼灸治療）を用いた免疫系疾患の改善作用

分野	職名	教員名	① 専門
			② 研究指導課題名
看護学 分野	教授	倉田節子	①小児看護学・看護管理学 ②子どもと家族への看護実践の質評価、短期入院の子どもと家族への看護に関する研究、看護師のキャリア支援
	教授	伊藤 薫	①地域・在宅看護学 ②地域包括ケア従事者を対象とする研究、健康生成論を基盤とする人材育成に関する研究
	教授	江口秀子	①成人看護学 ②クリティカルケア看護、救急看護に関する研究
	教授	國分真佐代	①母性看護学 ②周産期メンタルヘルス、母親の養育意識、産後ケアに関する研究
	教授	田中和奈	①老年看護学 ②認知症高齢者ケア、高齢者の疼痛管理に関する研究
	教授	中井三智子	①基礎看護学、地域在宅看護学 ②難病患者の療養支援
	教授	辻川真弓	①成人看護学 ②がん看護に関する研究、緩和ケアに関する研究、QOLに関する研究
	教授	萩 典子	①精神看護学 ②メンタルヘルス不調に関連する要因、メンタルヘルス不調をかかえる対象への就労支援に関する研究

# 【医療科学研究科 医療科学専攻 博士後期課程】

## Ⅲ 博士後期課程入学試験要項

### 1 募集人員（1期・2期）

研究科	課程	学位	専攻	募集人員	備考
医療科学	博士後期	博士(医療科学)	医療科学	5名	募集人員は社会人特別選抜を含む

### 2 入試日程

入試形態	出願期間(締切日消印有効)	入試日	合格発表日	入学手続締切日(締切日消印有効)
1期	2025年8月22日(金)～8月29日(金)	2025年9月21日(日)	2025年10月7日(火)	2025年10月20日(月)
2期	2026年2月2日(月)～2月9日(月)	2026年3月7日(土)	2026年3月16日(月)	2026年3月23日(月)

### 3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する方とします。

#### ○一般入試

次の各号のいずれかに該当する方とします。

- (1) 修士の学位を有する者、または2026年3月までに取得見込みの者
- (2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から修士の学位を授与された者、または2026年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、修士の学位に相当する学位を有する者、または2026年3月までに授与される見込みの者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

当項目により出願を希望する者は、出願開始日1ヶ月前に、大学院課までご連絡をお願い致します。

#### ○社会人特別選抜

現在、病院、会社等に1年以上在職中であり、上記の一般入試出願資格事項に該当する方

### 4 選抜方法

	一般入試	社会人特別選抜
試験科目	*筆記試験(専門・英語)および面接	

※・放射線情報学、医療栄養学、臨床検査学、理学療法学、作業療法学、医療福祉学、臨床工学、医療情報実践学、鍼灸学、看護学のうち1分野を出願時に選択して頂きます。

- ・英語は医療科学に関する英文を出題する。英和辞書持ち込み可(但し電子辞書は不可)。
- ・英語にTOEIC等のスコアを加味し加点する場合があります。希望される方は、出願時に取得点数を確認できるスコア証明書、成績証明書の原本または写しを提出してください。
- ・合格判定基準：筆記試験50点満点、面接試験50点満点の総合点を100点満点とし、面接点が6割以上、かつ総合点6割以上を合格とする。

5 試験時間割

入試形態	試験日	時間割	
		13:00～14:30	14:50～
1 期	2025年 9月21日(日)	筆記試験	面接
2 期	2026年 3月 7日(土)		

6 試験会場

入学試験は下記にて行います。

1期・2期 鈴鹿医療科学大学(三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1)

7 事前面談

出願を希望する者は、指導を受けることを希望する教員(p24～27)と出願前に必ず連絡をとり、博士後期課程において行いたい研究内容や単位取得等について相談してください。

その場合、出願開始日の1か月前に、本学大学院課(TEL:059-340-0334)まで連絡してください。

事前面談の資料として、①今まで行ってきた研究内容、社会人の方は仕事内容(自由形式)、②研究業績一覧(本学所定様式)、③研究計画書(本学所定様式)を提出して頂きます。

[②、③の様式は本学 HP [URL <https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi-department/document/>] からダウンロードしてください。[鈴鹿医療科学大学] → [入試情報] → [入試関連資料一覧] をクリック]

年度によって研究指導できない場合もありますので、ご了承ください。

8 出願書類

一般入試	社会人特別選抜	出願書類	諸事項
		○	○
○	○	受験票返信用封筒	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定記録郵便として切手を貼り、住所氏名を記入した定型封筒を各自用意してください。</li> </ul>
○	○	検定料	<ul style="list-style-type: none"> <li>35,000円(本学在卒者は免除します)</li> <li>検定料は所定の払込用紙を使用してください。本学窓口では扱いません。</li> </ul>
○	○	成績証明書	<ul style="list-style-type: none"> <li>在卒学校のものを提出してください。(本学在卒者は提出不要です)</li> </ul>
○	○	卒業(見込み)証明書	<ul style="list-style-type: none"> <li>在卒学校のものを提出してください。(本学在卒者は提出不要です)</li> </ul>
○	○	書類等送付先住所シール	<ul style="list-style-type: none"> <li>合否通知発送等に使用しますので正確に記入してください。</li> </ul>
	○	受験および就学許可書	<ul style="list-style-type: none"> <li>出願時在職中の方は提出してください。</li> </ul>
○	○	出願許可書	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前面談の上、発行された出願許可書を提出してください。</li> </ul>

### <出願手続>

- ・ 出願は郵送・窓口どちらでも受け付けます。郵送の場合は締切日消印有効です。
- ・ 出願書類を郵送する場合は、本学所定の封筒を使用してください。
- ・ 窓口出願の受付時間は平日の午前9時から午後5時30分までです。
- ・ **提出先**

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1  
鈴鹿医療科学大学 大学院課  
TEL. 059-340-0334

## 9 合格発表

入試形態	合格発表日	発表方法
1期	2025年10月7日(火)	郵送にて通知します。
2期	2026年3月16日(月)	

合格発表日から2週間以内に大学院課にお問い合わせを頂ければ総合点を開示します。

## 10 入学諸費用

年間所要額は次のとおりです。

(単位：円)

入学金	授業料	合計 (一括金額)	分割 の場合	前期分 (入学手続時納入金)	後期分
				200,000	750,000

- ・ 学納金は一括、分割のどちらかを選ぶことができます。分割の場合は入学手続時に前期分を納入し、9月末に後期分を納めることになります。
- ・ 入学金は本学研究科修士課程修了(見込)生は免除、(公社)日本診療放射線技師会推薦者(同会会員に限る)及び三重県厚生農業協同組合連合会推薦者(同会病院の看護師に限る)は100,000円とします。
- ・ **1期合格者は2025年10月20日(月)、2期合格者は2026年3月23日(月)までに入学諸費用を納入してください。**
- ・ 入学手続完了後、2026年3月23日(月)までに入学の辞退を申し出た場合は、入学金を除く授業料を還付します。

## 11 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金があります。(以下は2025年度入学者適用金額)

種別	貸与月額
第一種(無利子貸与)	8万円 または 12万2千円
第二種(有利子貸与)	5・8・10・13・15万円から選択

## 12 長期履修制度

この制度は、職業を有している等の事情により修学困難な方に対して、修業年限3年の学費納入で、修業年限を越えた期間(最長1年間)に、計画的な教育課程の履修を認めるもので、社会人の方が時間をかけて着実に学ぶための制度です。

希望される方は、3年次8月末までに申請をして頂きます。

### 【アドミッション・ポリシー（入学選抜の方針）】

鈴鹿医療科学大学大学院博士後期課程は、本学の「科学技術の進歩を、真に人類の健康と福祉の向上に役立たせる」という「建学の精神」のもと、保健・医療・福祉にかかわる各分野の横断的な地域と技術を身に付け、応用力を持ち倫理観あふれる人材の育成を目的としている。

保健・医療・福祉の各専門分野の課題解決、チーム医療を含む多職種連携に係る理論・実践などについて、創造性に満ちた研究を進める意欲を持つ学生を求めている。

入学する学生には、各専門分野の臨床現場で生じる課題を土台にしつつも、医療科学研究機関、大学などで自立した研究者となる志を有していることを期待する。

#### 具体的な人物像

- 1) 保健・医療・福祉の各専門分野、チーム医療を含む多職種連携に関して、創造性に満ちた研究に取り組む意欲のある人
- 2) 変化する社会のニーズに対応し、自らの研究を組織改革、地域開発、起業に結びつける意欲のある人
- 3) 自らの専門だけでなく、広く保健、医療、福祉の領域に関心を持っている人
- 4) 臨床現場、研究活動において、人の尊厳を基本にすることができる人

### 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）】

本学の医療科学専攻の学位授与方針に掲げた5項目を達成するための教育課程編成の方針を以下に示します。

1. 保健・医療・福祉に係る各専門分野、チーム医療を含む多職種連携に係る理論・実践の研究について、課題の発見、課題解決のための方法、結果の検証、結果の報告・発表などを系統的に学び、創造性に満ちた研究活動を進める能力を身に付けるための科目を設置する。
2. チーム医療を含む多職種連携に関する高度の知識を身に付けるための科目を設置する。
3. 科学研究を行う上での高度な倫理観を身に付けるための科目を設置する。
4. 科学研究にあたって国際的な視野を認識し、全世界からの情報受信、全世界への情報発信の方法を学ぶための科目を設置する。
5. 医療科学研究機関、大学などで行われる研究活動において、従来の研究に新たな視点を加え、組織改革、地域開発、起業など社会的ニーズに応える視点を持つことができるように授業を展開する。

### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

本学は大学院で医療科学を専攻し、5つの教育目標について以下の5項目を修得した学生に博士（医療科学）の学位を授与します。

1. 保健・医療・福祉に係る各専門分野の研究、自らの専門分野と、他職種との関連および協働を土台にして、チーム医療を含む多職種連携の理論・実践研究を、科学的手法に則り、自立した研究者として、創造性に満ちた研究を進めることができる。
2. チーム医療を含む多職種連携に関する高度の知識を身に付けている。
3. 科学研究を行う上での高度な倫理観を身に付けている。
4. 科学研究にあたって国際的な視野を認識し、全世界からの情報受信、全世界への情報発信を行うことができる。
5. 医療科学研究機関、大学などで行われる研究活動において、従来の研究に新たな視点を加え、組織改革、地域開発、起業に結びつくような視点を保つことができる。

# 授業科目

【千代崎キャンパス】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
分野 共通	臨床医療科学特講A(博士)	1・2・3	1		1.本課程に3年以上在学して所定の授業科目について20単位以上(必修18単位・選択2単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。 2.*が付いている科目は、当該分野の院生のみ履修可能である。
	臨床医療科学特講B(博士)	1・2・3	1		
	医学統計特論(博士)	1・2・3		2	
	医療安全管理学特講(博士)	1・2・3		2	
	医療倫理学特講(博士)	1・2・3		2	
	医療科学特論	1～3		2	
専攻 共通	医療科学研究法論究	1～3	2		
	科学論文技法論究	1～3	2		
	医療科学輪講(博士)	1～3	6		
	医療科学特別研究(博士)	1～3	6		

授業科目概要 (講義内容を変更することがあります。)

	授業科目の名称	講義等の内容
分野 共通	臨床医療科学特講 A(博士)	現在の医療は専門化が著しく進み、専門外のことに非常に疎くなりつつある。医療に携わる者としては、個々の専門分野以外に広く医療全体の概略を把握しておく必要がある。そこで医療従事者が知っておくべき基本的な重要である項目「医学とは何か、医療制度と保険制度、医療法制と医療事故、医療現場の現況、病院経営とリスクマネジメント、チーム医療の実際等」を概説し、その実際を学ぶ。
	臨床医療科学特講 B(博士)	WHO 憲章によれば「健康とは、身体的、精神的、および社会的に完全な状態であって、ただ単に疾病や虚弱ではないということではない」とされている。医学的、運動生理学的見地から「健康」について考察し、健康の意義、疾病、特に成人病、生活習慣病に対する医療従事者が取るべき思考過程、実践行動について指導する。さらに命の尊さ、尊厳死について学生同士のディベートを企画、思考を深める。具体的には身体の構造、生理、機能に関しての最低限の知識のほか人文科学的見地からの探求を行う。
	医学統計特論 (博士)	医学・医療分野では決定論的な結論を導くことが困難な場合には、データを統計的方法で分析して結論を求めることが多い。本講は既に学部で基礎統計学を学んだことを前提により深く、統計基礎と医学応用を中心に学ぶ。基礎では、確率変数と分布、大数の法則、中心極限定理、近似表現、推定理論と検定理論にスポットを当て、統計の考え方を理解することに重点を置く。医学応用では、標本の大きさデザイン、分散分析 ANOVA、臨床試験と疫学における利用について理解する。医学・医療で使う統計手法を理論と応用の両面から修得する。
	医療安全管理学特講(博士)	医療安全対策は世界各国で活発化してきており、わが国においても 2001 年に設置された「医療安全対策検討会議」が報告書をまとめ、医療の安全が確保され信頼される医療実現ための政策が打ち出され、医療関係者官民一体で取り組んでいる。本講義では、現在のわが国の医療安全対策を理解し、1) 医療安全の確保の課題と解決方策 2) 今後の医療安全対策 3) 国として当面取り組むべき課題等、について先進国との比較検討すると共に医療従事者として必要な医療安全に対する知識を習得する。
	医療倫理学特講 (博士)	医療倫理はヒポクラテスの時代から唱えられているが、最近の医療の進歩に伴い、その重要性はますます高まっている。本特論では①インフォームドコンセント、②臨床試験の倫理、③動物実験の倫理、④脳死と臓器移植、⑤緩和ケアの倫理、⑥災害医療の倫理、⑦告知、⑧チーム医療の倫理、⑨生殖医療の倫理など、さまざまな医療倫理の課題について、現場の事例も交えて議論を深めるとともに、医療倫理的思考に基づいて自分自身で適切な判断ができるという博士課程の学生に求められる能力を養う。

	授業科目の名称	講義等の内容
専 攻 共 通	医療科学研究法論究	研究は計画し実行して最後にその成果を公表して完結する。研究の実行に当たっては、研究目的と実証しようとする仮説を明確に、適切な対象と研究方法を選び、観察、実験、計測、介入などを通じて、新しい知見をデータとして得る。そのデータをこれまで知られていた知見と比較検討して、研究の結論を得る。これを成果として公表（学会発表から論文まで）して、初めて研究は完結する。医療科学の研究法には、少数の事例研究、大規模な事例研究、疫学研究、臨床データ解析、何らかの介入的研究、実験的研究があり、有意差検出のために統計的処理が必要なものもある。このような研究法について、実践を通じて学ぶ。
	科学論文技法論究	研究は計画し実行して最後にその成果を公表して完結する。公表の1つの方法で最も一般的な方法は論文である。指導教員の下で一連の研究を実践しその成果をまとめ、その結果の評価について考察して、論文作成を行う。科学論文の作成には一定のルールがある。投稿論文と学位論文は違出し、投稿論文も原著論文・総説・症例報告などいくつかあって必ずしも同じではない。そのルールについて実践を通して学ぶ。文献検索から始まって出来た論文の投稿先の検討や受理してもらえらるためのテクニックまでを学ぶ。
	医療科学輪講（博士）	在学期間を通して少なくとも4回、大学院担当教員と全大学院生を対象とした発表会でプレゼンテーションを行う。2回は指導教員の指導の下で、博士論文研究にかかわる原著論文または総説（英文が望ましい）を選び、その内容を紹介する。あとの2回は博士論文研究の計画・進捗状況・研究結果・考察等について報告する。全学生の必修とする。
	医療科学特別研究(博士)	在学期間を通して指導教員の下で調査や実験を中心とした研究を行い、その成果を博士論文としてまとめて発表する。研究課題は、各自の主分野及び分野共通の大学院担当教員の指導研究課題リストの中から選択し、入学願書に希望を申告する。指導教員と研究課題が決まらない場合、入学は認められない。大学院担当教員と全大学院生を対象とした発表会での発表をもって博士学位論文の審査とする。全学生の必修とする。

研究指導教員は P24 ～ 27 をご覧ください。

# 【薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程】

## I 入学試験要項

### 1 募集人員（1期～2期合わせて）

研究科	課程	学位	専攻	募集人員	修業年限
薬学	博士	博士(薬学)	医療薬学	2名	4年

### 2 入試日程

入試形態	出願期間(締切日消印有効)	入試日	合格発表日	入学手続締切日(締切日消印有効)
1期	2025年 8月22日(金) ～ 8月29日(金)	2025年 9月21日(日)	2025年10月 7日(火)	2025年10月20日(月)
2期	2026年 2月 2日(月) ～ 2月 9日(月)	2026年 3月 7日(土)	2026年 3月16日(月)	2026年 3月23日(月)

### 3 出願資格

博士課程（4年制）に入学することができる方は、次の各号の一つに該当する方とします。

- 大学の6年制薬学部を卒業した者、または2026年3月卒業見込みの者で、薬剤師免許を有する者もしくは取得見込みの者
- 大学の旧4年制薬学部を卒業し大学院薬学専攻または臨床薬学専攻の修士の学位及び薬剤師免許を有する者
- 大学の旧4年制薬学部を卒業後2年以上薬剤師として勤務し、学術活動の経験があり、修士の学位を有する方と同等の学力があると、本大学院において認められた者

当項目により出願を希望される方は、出願開始1ヶ月前に、大学院課までご連絡をお願い致します。

- 文部科学大臣の指定した者

### 4 選抜方法

試験科目	薬学専門科目・語学科目（英語）・面接
------	--------------------

・試験時に英和辞書を貸出します。

### 5 試験時間割

期別	試験日	時間割		
		13:00～14:00	14:10～15:10	15:20～
1期	2025年 9月21日(日)	薬学専門科目	語学科目(英語)	面接
2期	2026年 3月 7日(土)			

## 6 試験会場

1期・2期

鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパス (三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1)

## 7 出願する前に

- ・出願を希望する方は指導教員（P54参照）と研究内容等の打ち合わせを行っていただきます。また年度によって研究指導できない場合もありますので、出願前に必ず大学院課までご連絡ください。  
大学院課（TEL 059-340-0334）
- ・合格者でも入学時迄に薬剤師免許を取得していない方は、出願資格を満たしていない為入学の許可を取り消します。

## 8 出願書類

出願書類	諸 事 項
入 学 志 願 票 受 験 票 志 願 者 写 真 票	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要事項を記入してください。</li> <li>・裏面も忘れず記入してください。</li> <li>・希望指導教員は、教員と連絡を取ったうえ、必ず記入してください。 (希望指導教員はP54を参照してください)</li> </ul>
受 験 票 返 信 用 封 筒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定記録郵便として切手を貼り、住所氏名を記入した定型封筒を各自用意してください。</li> </ul>
検 定 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35,000円（本学在卒者は免除します）</li> <li>・検定料は所定の払込用紙を使用してください。本学窓口では扱いません。</li> </ul>
成 績 証 明 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在卒学校のものを出してしてください。(本学在卒者は提出不要です)</li> </ul>
卒 業 ( 見 込 み ) 証 明 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在卒学校のものを出してしてください。(本学在卒者は提出不要です)</li> </ul>
書 類 等 送 付 先 住 所 シール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可否通知発送等に使用しますので正確に記入してください。</li> </ul>
受 験 お よ び 就 学 許 可 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出願時在職中の方は提出してください。</li> </ul>
業 績 、 研 究 計 画 書 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の書類を提出してください。</li> <li>①今まで行ってきた研究・仕事内容（自由形式）</li> <li>②研究業績一覧（本学所定様式） ③研究計画書（本学所定様式）</li> <li>②、③の様式は本学HP [<a href="https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi-department/document/">https://www.suzuka-u.ac.jp/nyushi/nyushi-department/document/</a>] からダウンロードしてください。</li> <li><a href="#">鈴鹿医療科学大学</a> → <a href="#">入試情報</a> → <a href="#">入試関連資料一覧</a> をクリック</li> </ul>
推 薦 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人三重県薬剤師会の推薦を受ける方は、「本要項添付の推薦状」、「三重県薬剤師会会員証の写し」、「推薦状を返信するための封筒」を三重県薬剤師会にお送り頂き、推薦を受けてください。</li> </ul>

### <出願手続>

- ・出願は郵送・窓口どちらでも受け付けます。郵送の場合は締切日消印有効です。
- ・出願書類を郵送する場合は、本学所定の封筒を使用してください。
- ・窓口出願の受付時間は平日の午前9時から午後5時30分までです。
- ・提出先 〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町 1001 番地 1

鈴鹿医療科学大学 大学院課

TEL. 059-340-0334

## 9 合格発表

期別	合格発表日	発表方法
1期	2025年10月7日(火)	郵送にて通知します。
2期	2026年3月16日(月)	

合格発表日から2週間以内に大学院課に問い合わせを頂ければ総合点を開示します。

## 10 入学諸費用

年間所要額は次のとおりです。

(単位:円)

入学金	授業料	合計 (一括金額)	分割 の場合	前期分 (入学手続時納入金)	後期分
				200,000	750,000

- ・学費は一括、分割のどちらかを選ぶことができます。分割の場合は入学手続時に前期分を納入し、9月末に後期分を納めることになります。
- ・入学金は、本学薬学部卒業(見込)生は免除、一般社団法人三重県薬剤師会推薦者(同会会員に限る)は100,000円とします。
- ・1期合格者は2025年10月20日(月)、2期合格者は2026年3月23日(月)までに入学諸費用を納入してください。
- ・入学手続完了後、2026年3月23日(月)までに入学の辞退を申し出た場合は、入学金を除く授業料を還付します。

## 11 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金があります。(以下は2025年度入学者適用金額)

種別	貸与月額
第一種(無利子貸与)	8万円 または 12万2千円
第二種(有利子貸与)	5・8・10・13・15万円から選択

## 12 長期履修制度

この制度は、職業を有している等の事情により修学困難な方に対して、修業年限4年の学費納入で、修業年限を越えた期間(最長1年間)に、計画的な教育課程の履修を認めるもので、社会人の方が時間をかけて着実に学ぶための制度です。

希望される方は、4年次8月末までに申請をして頂きます。

## 13 大学院設置基準 第14条 教育方法の特例の実施

平日昼間の他、平日夜間並びに休日昼間にも授業又は研究指導を行います。

## Ⅱ 授業科目等

### 【アドミッション・ポリシー】

6年制薬学部または大学院修士課程修了、あるいは大学院修士課程修了相当の学力を有し、医療薬学領域での指導的薬剤師または薬学研究者・高等教育教員になることを強く希望する者

### 【カリキュラム・ポリシー】

科学的思考に基づく問題解決能力と自立した研究遂行能力を身に付け、チーム医療、地域医療に貢献できる指導的薬剤師、および医療薬学・臨床薬学の知識を備え、高齢者医療に取り組む科学的思考・研究心・研究能力を身に付けた薬剤師研究者・薬学研究者の養成を目的とする。

### 【ディプロマ・ポリシー】

チーム医療を推進し、医療現場の諸問題を科学的に解決できる指導的専門薬剤師としての能力を持ち、かつ先進的な医療薬学・臨床薬学の研究に取り組むことのできる科学的思考・研究心・研究能力を持った人材を養成する。この専攻を修了すると博士(薬学)の学位を取得できる。

### 教育課程の編成の考え方及び特色

本薬学研究科は、医療現場で活躍しうる人材を養成すべく、医療薬学のなかで生じる種々課題の解決、将来を見据えた新規研究への取り組みなどについて積極的に関わっていきます。本研究科の教育課程は次の4つの分野を柱としています。

- 1) 病態解析・薬効制御学分野
- 2) 薬物治療設計・管理学分野
- 3) 医薬品解析・開発学分野
- 4) 社会環境薬学分野

それぞれの分野は、1) 疾病の原因を探り効率的に薬剤を作用させる方法を探る、2) 薬の特性を踏まえて効率的な使用法を探り投薬を設計する、3) 柔軟な視点を基にした解析による既存医薬品の機能発掘および新規医薬品開発、4) がん予防、精神衛生など超高齢社会に対応する衛生薬学・疫学研究を模索していきます。

入学者は6年制の学部からの進学者の他、旧制度の薬学部（4年制）を卒業された方をも想定し、入学者の状況に合わせて履修指導を行っていきます。

# 教育課程等の概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考	
			必修	選択		
医療薬学講義	医療薬学総合講義	1前	2		オムニバス方式	
	小計(1科目)	—	2	0		
高度専門教育科目	病態解析・薬効制御学分野	病態画像診断学特論	2後		2	隔年開講
		薬効分子設計学特論	1前		2	隔年開講
		神経内分泌・栄養学特論	2前		2	隔年開講
		神経再生薬学特論	1前		2	隔年開講
		老化制御学特論	1前		2	隔年開講
		病態解析・薬効制御学演習	1後		2	隔年開講・オムニバス方式
	薬物治療設計・管理学分野	老年病態薬学特論	1後		2	隔年開講
		生体分子解析学特論	1後		2	隔年開講
		感染制御学特論	1前		2	隔年開講
		免疫制御薬学特論	2後		2	隔年開講
		ゲノム治療学特論	2前		2	隔年開講
		薬物治療設計・管理学演習	2後		2	隔年開講
	医薬品解析・開発学分野	抗血栓薬開発学特論	2前		2	隔年開講・オムニバス方式
		食品生化学特論	2後		2	隔年開講
		抗体医薬品開発学特論	2後		2	隔年開講
		無機医薬品開発学特論	2前		2	隔年開講
		生物無機化学特論	1前		2	隔年開講
		医薬品解析・開発学演習	1後		2	隔年開講
	社会環境薬学分野	腫瘍薬学特論	1後		2	隔年開講
		医薬品情報解析学特論	2前		2	隔年開講
		精神衛生薬学特論	1後		2	隔年開講
		環境・薬剤疫学特論	1前		2	隔年開講
		社会薬学特論	1前		2	隔年開講
		社会環境薬学演習	2後		2	隔年開講・オムニバス方式
小計(24科目)		—	0	48		
医療薬学実習	実践的医療薬学演習	2前	2		隔年開講・共同	
	フィジカルアセスメント学内実習	2前	2		隔年開講〈学内〉共同	
	フィジカルアセスメント臨床実習	2後～3前		2	〈学外〉共同	
	小計(3科目)	—	4	2	共同	
博士論文研究	医療薬学研究総合演習	4通		2		
	課題研究	1～4通	12			
	小計(2科目)		12	2		
合計(30科目)		—	18	52		
学位又は称号		博士(薬学)		学位又は学科の分野	薬学関係	
修了要件及び履修方法						
<p>【修了要件】本課程に4年以上在学して所定の授業科目について30単位以上(必修18単位・選択12単位以上)を修得し、且つ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>(1) 医療薬学講義について必修1科目、2単位を修得すること。                  (2) 高度専門科目の特論について4つの分野の中から5科目以上選択し、10単位以上修得すること。                  (3) 高度専門科目の演習について4つの分野の中から1科目以上選択し、2単位以上を修得すること。                  (4) 医療薬学実習について必修2科目、計4単位を修得すること。                  (5) 博士論文研究の必修12単位を修得すること。</p>						

授業科目概要 (講義内容を変更することがあります。)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
医療薬学講義	医療薬学総合講義	<p>本講義は、医療薬学の科学的思考と研究能力の熟成を目的とした構成とし、社会に貢献できる指導的薬剤師、薬学研究者としての能力、資質、姿勢、素養を身に付ける。がんや認知症に関わる医薬品開発や薬物療法、それらを取り巻く社会的環境について理解するため、病態解析・薬効制御学、薬物治療設計・管理学、医薬品解析・開発学、社会環境薬学の4つの分野を体系的に学び、予防から治療に至る総合的な知識を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(飯田靖彦/病態解析・薬効制御学：3回)            第1回：画像診断による病態解析            第2回：がん診断薬の分子設計            第3回：神経変性疾患の画像診断            (大井一弥/薬物治療設計・管理学：3回)            第4回：がんの病態生理と薬物療法の概説            第5回：老年疾患の病態生理と薬物療法の概説            第6回：皮膚疾患の病態生理と薬物療法の概説            (佐藤英介/医薬品解析・開発学：3回)            第7回：癌、老化に関わる活性酸素代謝            第8回：癌、老化への機能性食品の効果            第9回：生体のレドックス制御と医薬品開発            (田口博明/医薬品解析・開発学：3回)            第10回：神経変性疾患の病態            第11回：神経変性疾患治療薬の分子設計            第12回：アルツハイマー病のワクチン療法            (榎屋友幸/社会環境薬学：3回)            第13回：細菌感染症の薬物治療            第14回：真菌感染症・ウイルス感染症の薬物治療            第15回：日本における抗微生物薬耐性            (Antimicrobial resistance:AMR) 対策</p>	オムニバス方式
高度専門教育科目	病態画像診断学特論	<p>医療の発達に伴い、体内の様々な機能異常の検出、病態の解析は治療方針の選択、決定に不可欠のものとなっている。特にがんや様々な神経疾患の早期診断、早期治療は今日の高齢化社会において喫緊の課題である。本特論では病態特性に基づく選択的な薬物移行性を示す新しい放射性診断薬剤、造影剤などの研究開発の方向性と問題点、それらを用いた臨床研究、臨床診断の現状、またその特性を利用した薬物治療の動向について講義する。</p>	隔年
	薬効分子設計学特論	<p>種々の疾患に関与する因子の特性を解説し、治療戦略を練るうえで何が重要かを考える。例えば、細菌感染症に関連するタンパク質、ヒト細胞への毒性低減を狙った抗菌剤、低酸素分圧感受性の放射線増感剤、抗がん剤、</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門教育科目 病態解析・薬効制御学分野	薬効分子設計学特論	薬物代謝酵素、などのタンパク質や低分子化合物について、それらの機能を発現するために如何なる構造上の工夫があるのか動的な構造を踏まえて、薬効を発現する分子を設計する際に留意すべき視点について考察していく。	
	神経内分泌・栄養学特論	<p>中枢神経系と内分泌系と免疫系のネットワークは生体の恒常性の維持に関わっている。不安・ストレスは自律神経活動や上記ネットワークに影響を及ぼし、自律神経失調症やストレス性疾患の誘導、又は精神疾患を伴った記憶障害等を悪化させることにつながる。最終的には脳由来の神経栄養因子 (BDNF) を介して脳卒中や心筋梗塞などの生活習慣病の発症リスクを高める。</p> <p>本特論では、脳卒中や心筋梗塞などの生活習慣病に発展させない前段階での予防医療の重要性について論文を通して習得する。そのためには、精度の高い効能評価を行うために、動物の個性（不安を感じやすい、または不安を感じにくい）を分類し、不安を感じやすい動物のみを使用したときの機能性食品（エゾウコギなど）の効能評価を行った論文のデータを分析し、考察する能力も習得する。</p> <p>上記の論文を通して、脳への神経栄養サプリメントという観点から、自律神経安定化に働く生薬・漢方薬、健康食品による予防医療への応用を高め、医療費削減につなげる効果的なメリットも併せて修得する。</p>	隔年
	神経再生薬学特論	基本的な脳の発生や細胞分化の基礎知識と、損傷後の細胞、組織および器官がどのような運命をたどるのかを理解し、再生促進と機能回復を目指すための応用知識を習得する。授業を通して、包括的な再生に必要な細胞生存・修復機構、エピジェネティクスな遺伝子表現機構、再生阻害環境の克服と神経回路再建のメカニズムを薬学的な観点から理解する。さらに E S 細胞・i P S 細胞を使った再生戦略や創薬研究を学び、最新の神経修復・再生から回路再建と機能修復の現状と課題を理解する。	隔年
	老化制御学特論	超高齢化社会を迎える日本において、老化制御による健康寿命の延長は、高齢者の QOL 改善及び医療費削減の観点から重要な課題である。アルツハイマー病などの加齢性神経変性疾患では、病態形成の理解や治療標的分子が十分に解明されていない。本特論では、老化及び加齢性神経変性の病態形成に関与する細胞病理学的変化を理解し、老化による細胞形態や発現分子の変化、活性酸素や炎症の役割、タンパク質の修飾、老化細胞の表現型などを学ぶ。老化に伴う疾患の早期診断のためのバイオマーカーや、健康寿命延長を目指した老化制御を目的とした創薬に繋がる標的分子の探索に関する知見を学ぶ。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl;">病態解析・薬効制御学分野</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">高度専門教育科目</p>	<p style="text-align: center;">病態解析・薬効制御学演習</p>	<p>がんや老年病などの診断治療に関わる画像診断、病態に関連するタンパク質性・非タンパク質性因子の構造と機能、神経内分泌物質による恒常性の調節維持、神経の再生に関わる因子、加齢性神経変性疾患の治療的分子の探索を主題として討論し専門的な知識と論理的な思考を身につける。5名の担当教員がオムニバス方式で演習を行い、それぞれの主題について学術論文を用いて科学的に論旨を組み立てる力と、データに基づいて考察する能力を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(飯田 靖彦/第1回～第3回)</p> <p>社会的ニーズの高い病態を的確に診断するための画像診断法</p> <p>(大倉 一人/第4回～第6回)</p> <p>病態を誘発する因子の構造と機能</p> <p>(藤川 隆彦/第7回～第9回)</p> <p>神経内分泌物質の恒常性維持における役割</p> <p>(郡山 恵樹/第10回～第12回)</p> <p>神経の再生に関わる因子について</p> <p>(古川絢子/第13回～第15回)</p> <p>加齢性神経変性疾患の治療標的分子の探索</p>	<p>オムニバス方式・隔年</p>
	<p style="text-align: center;">老年病態薬学特論</p>	<p>日本は経験したことのない超高齢社会の最中にあり、高齢者が増え続けている。高齢者医療では、多病で老年症候群と日常生活の障害を抱え、しばしば救急対応も必要であるため、臓器横断的な思考が求められる。本特論は、高齢者の病態および薬物治療の特徴について心身機能の加齢変化と共に総括する。また今後の進展が期待できるプロダクティブエイジングについても総括する。</p>	<p>隔年</p>
	<p style="text-align: center;">生体分子解析学特論</p>	<p>老化にともない生命機能を担う分子が変化し様々な疾病を引き起こす。特に脳内で起こる分子変化(老化)は神経を変性させ、アルツハイマー病を代表とする認知症、クロイツフェルト・ヤコブ病など、重大な疾病の原因となっている。本特論では、神経変性疾患と生体分子の老化との関係を総論するとともに、様々な生体分子の微少な構造変化を分析する技術やそれら分子の相互作用を解析する技術を学び、認知症を代表とする神経変性疾患の予防および診断法への展開について講述する。薬物治療を設計するために、これら分子老化の情報をどのように利用すべきか議論する。</p>	<p>隔年</p>
<p style="text-align: center;">感染制御学特論</p>	<p>感染制御およびそれに基づく治療設計を考える上で重要となる、医療関連感染に関連した微生物の知識、主要な感染症の概要、治療薬および消毒薬の適正使用、感染拡大防止対策の検討などについて基礎的および応用的知</p>	<p>隔年</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門教育科目	感染制御学特論	識を身につけるとともに感染症の診断・治療・予防に関する総合的な対応能力を有する専門的知識の習得を目指す。さらに、文献を通じて日本のみならず、世界の感染症の現実とその治療法開発について学び、発表及び討論を行う。	
	免疫制御薬学特論	花粉症などに代表されるアレルギー疾患は日本をはじめとする先進国で、約40%の国民が罹患している免疫システムが関与している過敏症である。これらの発症機序の理解及び、その最先端の治療法を理解することは、今後の高度専門知識を有する薬剤師育成において重要である。本特論では免疫システムの破綻によって生ずるアレルギー、自己免疫疾患、感染症などの免疫関連疾患の発症機序及び最先端の治療法を解説する。また、医療現場で曹禺する薬物アレルギーなどの弊害に対して、臨床医と協力して、対応できる知識の養成を行う。	隔年
	ゲノム治療学特論	病態治療において、表現型の形成に関与する先天のおよび後天的要因の多段階的理解は不可欠である。本特論では、先天的な遺伝性疾患に対する先進的治療法と、エピジェネティクスを活用した治療戦略を解説する。これにより、ゲノム編集技術を含む分子レベルの治療アプローチを学び、病態の本質を理解することで、医療従事者としての基盤となる知識と応用力を養成する。	隔年
	薬物治療設計・管理学演習	近年、治療法が進展する一方で副作用発現の報告も多く、それらを未然に防ぐために、病態解析から薬物治療に至るまで、生物的・化学的に基づく専門的かつ論理的な思考を身に付ける必要がある。本演習では、5名の担当教員がオムニバス方式で演習を行い、それぞれの主題について学術論文による論理構成や考察能力を修得する。 (オムニバス方式 / 全15回) (大井 一弥 / 第1回～第3回) 皮膚の病態変化と薬物治療管理 (定金 豊 / 第4回～第6回) 生体分子の老化と解析・管理技術 (中山 浩伸 / 第7回～第9回) 感染症の現状と治療法 (西田 圭吾 / 第10回～第12回) アレルギー疾患の病態と薬物治療 (及川 弘崇 / 第13回～第15回) 遺伝子病の病態と薬物治療	オムニバス方式・隔年
	医薬品解析・開発学分野	抗血栓薬開発学特論	我が国をはじめとする先進国では、心筋梗塞、脳梗塞、播種性血管内凝固症候群などの血栓症は、癌と並ぶ2大死因であり、例え死に至らない場合でも発症後のQOLは

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門教育科目	抗血栓薬開発学特論	極めて不良である。従って、血栓症を適切に治療でき、さらに血栓症の発症を効果的に予防できる抗血栓薬の開発は極めて重要である。本科目では、先天性並びに生活習慣病など後天性に発症する血栓症の分子病態を解説するとともに、血栓症の治療や予防に用いる抗血栓薬の作用機構、効能、副作用など、抗血栓薬の開発に関する最新の知見や研究成果を解説する。	
	食品生化学特論	食品は必須の栄養素を供給するが、それだけでは説明できない生理調節機能（三次機能）がある。例えば、赤ワインのポリフェノールには抗酸化機能などがあることが知られ、フレンチパラドックスといわれている。本講義では、食品中に含まれる健康の維持・増進に役立つ各種成分（機能性食品成分）について説明する。さらに食品衛生学の観点からの講義も行う。このような機能性食品成分の生体調節作用を理解することによって、食生活の改善が疾病予防や健康増進に重要な役割を果たすことを学習する。さらに、それらを利用した生化学的アプローチと医薬品開発について学習する。さらに、文献を通じて機能食品とその医薬品開発について学び、発表及び討論を行う。	隔年
	抗体医薬品開発学特論	近年、抗体医薬品は、抗リウマチ薬や抗がん薬として非常に高い評価を得ており、全医薬品に占めるその割合は年々増加している。抗体医薬の特徴は、抗原に対する高い親和性と特異性であり、この特徴により副作用が少なく治療効果が高いことが期待されている。本特論では、現在の薬物治療の中心である低分子医薬品と抗体医薬品との違い、最新の抗体改変技術を用いたがんや神経変性疾患（アルツハイマー病など）をターゲットとした抗体医薬品について理解を深める。さらに、抗体医薬品が直面している課題や今後の医療における抗体医薬品のありかたについて、最近の知見や研究成果を交えながら解説する。	隔年
	無機医薬品開発学特論	現在承認されている医薬品のほとんどは有機化合物に由来するものであるが、白金抗がん薬や金抗リウマチ薬など、金属錯体も臨床では欠かせない薬剤として広く用いられている。また、ルテニウム錯体が、がん転位抑制剤として治療中であるなど、今後も金属錯体等の無機化合物が、患者のQOLを向上させる画期的な新薬として開発される可能性が高い。本特論では、無機医薬品および無機医薬品候補化合物の端緒、合成法、薬効メカニズムおよび副作用軽減を目的とした創薬アプローチについて学び、無機化合物を用いた創薬研究に対する理解を深める。	隔年
	生物無機化学特論	無機物には、元素、単体および無機化合物が含まれ、生体と深い関わりを持つ。例えば、必須微量元素は、酵	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門教育科目	生物無機化学特論	素やタンパク質のコファクターとして生体の恒常性維持に欠かすことはできない。また、無機化合物は、古くから医薬品として利用されている。本特論では、微量元素が関わる病態や、無機化合物が治療薬として用いられている例、これらの病態解析や医薬品開発の経緯について学び、金属元素分析などの分析手法に関しても理解を深める。	
	医薬品解析・開発学演習	<p>抗血栓性薬品、抗体医薬品、含金属医薬品を中心とする医薬品や機能性食品含有成分の解析と開発に関する最先端の研究成果について、国際一流雑誌や専門雑誌の論文を熟読し、討論することにより、当該分野の最新の専門知識を修得する。また、各課題研究で得られた成果を専門領域の学会等で発表し、討論することにより、研究成果の新規性や薬学的意義・社会的意義を理解し、目標とする医薬品や機能性食品の解析と開発に必要な具体的な研究計画・方法を策定できる実力を養成する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(鈴木 宏治 / 第1回～第3回)</p> <p>抗血栓薬の開発について (佐藤 英介 / 第4回～第6回)</p> <p>機能性食品の開発について (田口 博明 / 第7回～第9回)</p> <p>抗体医薬品開発について (米田 誠治 / 第10回～第12回)</p> <p>無機医薬品開発について (植村 雅子 / 第13回～第15回)</p> <p>無機医薬品の作用機序解析について</p>	オムニバス方式・隔年
社会環境薬学分野	腫瘍薬学特論	がんは、現在国の死因第1位であり、2人に1人は罹患する身近な病である。遺伝性疾患が原因になることもあるが、生活週間病でもあり、がんリスクを下げることは可能である。本特論では、がんの生物学的特徴、発生および悪性化の機序、リスク因子について学び、がん予防についての専門知識を習得する。がん研究は近年急速に進歩しており、分子標的薬、がん化学予防薬などについて、現状と課題を議論する。	隔年
	医薬品情報解析学特論	近年、医薬品副作用データベースやレセプトデータなどの臨床情報に加えて、ゲノム情報、タンパク質間相互作用データ、タンパク質立体構造に関するデータベースなど、基礎研究によって入手された情報も豊富に入手できる環境が整備されてきている。これらの情報を統合解析して臨床に繋げることが期待されている。本講義では自身のコンピューターに統計解析ソフトRを実装し、様々	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門教育科目 社会環境薬学分野	医薬品情報解析学特論	なデータセットについて実際に統計学的解析を行い、その手法や仕組みを学修する。	
	精神衛生薬学特論	精神疾患名は2013年度より5大疾患の1つとなり、厚労省はその方針を今後の医療計画に反映させることとしている。精神疾患は人々のQOLに大きく影響し、その社会的損失は大きい。精神科2大疾患である統合失調症およびうつ病、さらに超高齢社会の現状から大きな問題となっている認知症を取り上げて薬物療法の適正化について学び、議論する。	隔年
	環境・薬剤疫学特論	現代では、様々な環境化学物質による疾病や医薬品による副作用が問題となっている。これらの影響について医学・薬学的根拠の整理・評価・応用につなげるために「人の集団における効果や影響を研究する学問」である疫学を用いる。この講義を通じて、疫学の基礎的理論・方法を学び、臨床研究に関する論文を題材に応用することによって、環境化学物質や医薬品の効果・影響に関する実践的な疫学の研究方法を身につける。	隔年
	社会薬学特論	法学、社会学、倫理学、経済学などの学際的な立場から、医療従事者および患者の社会的課題、医薬品開発を取り巻く環境、医療経済、社会保障制度などについて講義を行う。薬害や製薬企業の不祥事などの諸問題を題材とし、防止策と解決策について討論する。高齢化社会の諸問題を題材とし、高齢者の責任能力について討論する。科学的かつ論理的な思考に、批判的な考察を加えることで、利益の衡量を論じることができる実力を養成する。	隔年
	社会環境薬学演習	腫瘍薬学、がん予防学、精神衛生薬学、環境・薬剤疫学を中心とする社会環境薬学に関連する最先端の研究についての学術論文や総説をもとに、最新の専門知識を修得する。各教員の研究に関連した学術論文を用いて、科学的かつ論理的な思考能力、批判的な考察力、また質疑討論できる能力を修得する。さらに、各研究分野における課題について理解する。 (オムニバス方式 / 全15回) (山口 太美雄 / 第1回～第2回) ・レギュラトリーサイエンスについて (大西 志保 / 第3回～第4回) ・炎症関連がんおよびがん化学予防について (榎屋 友幸 / 第5回～第7回) ・生命医学情報について (森 尚義 / 第8回～第10回)	オムニバス方式・隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
高度専門教育科目 社会環境薬学分野	社会環境薬学演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会薬学概論 (三輪 高市 / 第11回～第12回)</li> <li>・精神疾患に関する薬物療法の適正化について (坂 晋 / 第13回～第15回)</li> <li>・疫学研究による環境化学物質や医薬品の影響評価</li> </ul>	
医療薬学実習	実践的医療薬学演習	副作用の早期診断にはフィジカルアセスメントに関する理論に加えて、薬剤副作用と固有疾患の鑑別診断能力が必要である。この鑑別診断能力を New England Journal of Medicine 誌等掲載症例の PBL 方式による実践的解析演習により教育する。また、複合疾患を有する高齢者の薬物療法を中心とした処方解析を実施する。	隔年・共同
	フィジカルアセスメント学内実習	高機能患者シミュレータを使用したフィジカルアセスメント実習（バイタルサイン評価法・聴診法・打診法・触診法）と心電図解析実習・放射線診断画像読影実習・エコー画像読影実習を実践的に教育する。症例の身体所見、臨床検査値及び各種画像所見より疾患名とその重篤度を類推し、医師免許を持った教員と討議できるようにする。	隔年・共同 ＜学内＞
	フィジカルアセスメント臨床実習	連携協力医療機関においてチーム医療に参画し、フィジカルアセスメントを活用した薬効評価ならびに副作用未然回避の実践に必要なスキルを学ぶ。特に高齢者は、生理機能が低下しているため、薬効の増強と共に副作用が発現しやすい。このため、高齢者におけるフィジカルアセスメントについては重点的に実習し、臨床研究への橋渡しとなる理論と技能を習得する。	共同 ＜学外＞
博士論文研究	医療薬学研究総合演習	<p>大学院研究にふさわしい研究レベル、研究の独創性、方法論などについて総合的に学修し、学術的な論理構築、思考法を身につける。演習は、①学位論文にふさわしい魅力的な研究テーマ、②先行研究の整理と問題設定、③研究方法の選択と実行可能性、④倫理面への配慮、⑤学位論文における章立て、論述の流れ、⑥適切な図表の処理・表示の仕方、⑦仮説に対する的確な証明の仕方、⑧結果に対する合理的な考察、⑨効果的なプレゼンテーションの仕方などを含み、担当教員によるオムニバスを含む共同形式で、学位論文のまとめ方を修得する。(全30回)</p> <p>在学期間を通して指導教員の下で調査や実験を中心とした研究を行い、その成果を博士論文としてまとめて発表する。</p>	
	課題研究	<p>(飯田 靖彦)</p> <p>研究テーマ【病態特性に基づく選択的薬物移行を利用した臨床画像診断薬・治療薬の開発】</p> <p>がん、認知症など社会の高齢化に伴う疾患の早期診断、</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士論文研究	課題研究	<p>早期治療法の確立は、現在の日本において緊急の課題である。本研究では、病態の解析、治療方針の決定に不可欠な画像診断に用いる分子標的薬剤とこれを基にした治療薬剤の研究開発を実践、指導し、論文指導を行う。</p> <p>(大井 一弥)  <b>研究テーマ【皮膚生理機構の破綻要因と薬物治療に関する研究】</b>  皮膚の生理は、加齢や環境因子など様々な影響を受けている。その要因を多面的に解明し、新規薬物治療法について論文指導を行う。</p> <p>(大倉 一人)  <b>研究テーマ【病態関連因子の動的機能解析、エネルギー代謝制御と薬効制御】</b>  病態を引き起こす因子の性質を理解する事は非常に重要である。例えば、細菌感染や薬物代謝、エネルギー代謝では種々のタンパク質やリガンドが関与している。それらは多くの場合柔軟に動いており、生体との相互作用に適した立体配座をとったときに機能すると考えられる。病態誘発に必須な動的高次構造を見極め、時には利用することで治療法開発の手がかりとなる事が期待される。病態関連因子の動的機能解析、エネルギー代謝制御と薬効制御に関して、研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(定金 豊)  <b>研究テーマ【神経変性疾患に関わる生体分子の老化分析および相互作用解析法の開発】</b>  アルツハイマー病やクロイツフェルト・ヤコブ病（プリオン病）に代表される神経変性疾患や脳血管性認知症などの脳神経疾患を研究の対象とする。これらの脳神経疾患に関わる生体分子の微少な構造変化を分析する方法を確立し、疾患の発症機構の解明を目的とした研究指導を行う。さらに独自のケミカルバイオロジー技術を利用して、これら生体分子の相互作用解析法の開発研究を行い、発症機構の解明に役立てるとともに、新たなバイオマーカーの探索とそれらを利用した診断法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(佐藤 英介)  <b>研究テーマ【機能性食品による活性酸素代謝と老化・癌の制御】</b></p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士論文研究	課題研究	<p>我々、好氣的生物は酸素呼吸をすることでエネルギーを得ている。このとき、酸素の数%は平時でも活性酸素に代謝され、高血圧、糖尿病、動脈硬化、老化、がんなどの原因や増悪因子となり、寿命決定因子ともなっている。一方、活性酸素は感染防御機構にも不可欠であり、細菌が混入した食物を安全に摂取できるのもこのお陰である。食物の摂食により今日を生き抜くことが出来れば、我々生物は、明日に遺伝子をつなげることができる。食品には様々な機能分子が存在するが、その全容は明らかとなっていない。本研究では、活性酸素代謝と多彩な生命現象を統合制御する様相と食品機能分子がそれらにどのように関わるかを明らかにすることを目的とした研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(鈴木 宏治) 研究テーマ 【血栓症の分子病態解析と抗血栓性物質の探索研究】</p> <p>脳梗塞や心筋梗塞などの血栓症の原因の多くは、血管内皮機能の異常、血液凝固系因子や血小板機能の異常に起因する。我々はこれまで、血管内皮の凝固制御系分子、トロンボモジュリン (TM) の遺伝子組換え体を重篤な血栓症である播種性血管内凝固症候群 (DIC) の治療薬として創製してきた。本研究では、凝固系異常症や血小板機能異常症の分子病態解析を行うとともに、真菌感染に伴う血管内皮の炎症機序の解明を研究課題とし、新規な抗血栓性物質の探索に関する研究指導を行う。</p> <p>(田口 博明) 研究テーマ【ペプチド科学を基盤技術とした高付加価値抗体作成法に関する研究】</p> <p>抗体医薬品は、がんや炎症性疾患領域の治療薬として非常に高い治療効果を得ており、これまで治療が困難であった認知症などに対する抗体医薬品の開発も進められている。一方、免疫学の進歩により免疫システムの理解が進み、効果的なワクチン療法の開発が行われている。ペプチド科学を基本技術としてワクチンや次世代抗体医薬品の開発を研究課題とし、高付加価値抗体作成技術の確立に関する研究指導を行う。</p> <p>(中山 浩伸) 研究テーマ【真菌の生存戦略の解明を基盤とした抗真菌薬の開発】</p> <p>多くの深在性真菌症は、免疫不全患者において日和見感</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士論文研究	課題研究	<p>染症として発症するが、医療の高度化や人口の高齢化などと関連して増加の一途をたどっている。また、発症後は致死経過をたどることも少なくない。現在の真菌感染症治療薬には抗真菌スペクトルや副作用の問題があるため、治療薬選択の余地は狭く、有効な治療法の開発が急務となっている。有効な治療法を開発していくには、菌の生存戦略の1つであるストレス環境下の応答機序（シグナル伝達や代謝など）を解明していくことが必要不可欠となる。本研究では、遺伝学的・分子生物学的手法を用い、ストレス応答機構を解明し、得られた知見から抗真菌薬の標的分子の選出や化合物スクリーニングを行うことで、真菌感染症における治療の創製を目指す。</p> <p>（西田 圭吾）</p> <p>研究テーマ【栄養素における免疫制御機構解明とその応用に関する研究】</p> <p>免疫機能は様々な臓器、組織、細胞、分子から構築されており、それらがバランスを取りながら生体の恒常性を維持している。食品に含まれるミネラルやビタミンなどの栄養素は免疫機能を調節する作用があることが知られている。これら栄養素の受容体／輸送体が免疫担当細胞に発現していることから、免疫システムにおける機能性を積極的に裏付ける根拠の一つとなっている。しかしながら栄養素による免疫システムの作用機序は十分に理解されていない。そこで、ミネラルやビタミンなどの栄養素による免疫機能や免疫が関与する病態への影響について解析し、その分子メカニズムを明らかとする。</p> <p>免疫と栄養に着目し、免疫が関わるアレルギー・自己免疫疾患・感染症・がんの予防及び治療に関する研究及び論文指導を行う。</p> <p>（藤川 隆彦）</p> <p>研究テーマ【脳サプリメント等による代謝改善研究】</p> <p>超高齢化社会を迎え、医療費削減の観点からメタボリックシンドロームへの進展を防止する指導的薬剤師の育成が求められている。その一つに薬剤師によるセルフメディケーションの推進がある。本課題研究では、ストレス、代謝・摂食調節の異常、不眠、うつ病、肥満等によるメタボリックシンドロームへの進展に対する脳作用型サプリメント・生薬・漢方薬・医薬品、及びサプリメント誘導型運動などによる代謝改善研究を推し進め、その特徴、特性からセルフメディケーションに使用可能なサプリメントや医薬品等の薬理学的分類を行う。また、それらを活用し、メタボリックシンドロームへの進展防止ストラ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士論文研究	課題研究	<p>テジー構築（テーラーメイド予防医療）に関して、研究の実践、指導を行い、脳サプリメント等による代謝改善について論文指導を行う。</p> <p>（三輪 高市） 研究テーマ【精神科用薬の適正使用に関する研究】 現在、社会情勢の劇変から精神科に関わる疾患が増え、国民の健康維持において精神衛生のケアは非常に重要である。 本研究室では、薬学に従事する者として「精神科用薬の適正使用に関する研究」を通じて、国民の精神衛生面での健康増進に寄与出来る人材の育成を目指している。 研究は、現場の医療者と連携して精神科用薬の治療効果や有害事象などを調査研究し、結果から方向性に応じた基礎研究を実施しながら、臨床の現場にフィードバックできるデータの蓄積を目標に教育指導および論文指導を行う。</p> <p>（郡山 恵樹） 研究テーマ【中枢神経の修復・再生促進化合物の探索とメカニズム解析】 中枢神経系は損傷を受けると再生が困難でありそのメカニズムの詳細は不明である。損傷後中枢神経系の修復・再生メカニズムの解明を研究課題とし、細胞培養から実際の実験動物を使用して薬理的、生化学的、分子生物学的な知識と技術を習得する。再生に必要な細胞生存・修復機構、エピジェネティクスな遺伝子発現機構、再生阻害環境の克服と神経回路再建を薬学的観点で研究し、難治性中枢神経疾患治療に関する研究指導を行う。</p> <p>（米田 誠治） 研究テーマ【遷移金属を用いた抗がん医薬品の開発研究】 非常に高い in vivo 抗腫瘍効果を発揮する白金複核錯体の創薬基盤を構築した。本研究では、白金等の遷移金属を用いた抗がん医薬品の開発を行う。副作用の軽減と薬理活性の向上を目的とした創薬研究を遂行するとともに、金属錯体と生体高分子との相互作用様式を明らかにし、薬理効果との関連を調べる。がん患者の QOL 向上に貢献する医薬品の創出を目的とした研究課題を設定し、研究指導および論文指導を行う。</p> <p>（榎屋 友幸） 研究テーマ【薬物治療における臨床疑問の解決に向けた研究】 臨床現場から創出された薬物治療における臨床疑問</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士論文研究	課題研究	<p>を解決することは、医療の発展において重要となり、さらに基礎薬学への発展にも寄与する可能性が高い。本研究室では、様々な薬物治療における臨床疑問に着目し、あらゆる種類のビッグデータの解析、ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクス、臨床研究（臨床データの分析や生体サンプルの解析）および in vitro や in vivo による実験を組み合わせた統合的な検証を行い、臨床疑問の解決に繋げることを目指す。現在、以下について研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ タクロリムスによる血栓性微小血管症の新たな予防法の確立</li> <li>■ リコンビナントトロンボモジュリン製剤による重症感染症の新たな治療戦略の確立</li> <li>■ 脂肪乳剤を用いた急性薬物中毒に関する新たな治療法の確立</li> <li>■ 医薬品副作用データベースを活用した機械学習による医薬品特性と副作用の関連性解析</li> </ul> <p>(坂 晋)</p> <p>研究テーマ【薬剤・環境による胎児毒性に関する疫学研究】 現代では、様々な環境化学物質による疾病や医薬品による副作用が問題となっている。特に感受性の高い時期である胎児期・幼若期におけるこれらの物質による影響が懸念されている。そこで本課題研究では、疫学的手法・実験的手法を用いて、医薬品の副作用や環境化学物質による次世代影響を課題とした研究指導を行う。</p> <p>(森 尚義)</p> <p>研究テーマ【ヘルスリテラシーの向上に関する研究】 超高齢社会に向き合うにあたり、疾病の予防と健康寿命の延伸を目的として、地域住民のヘルスリテラシー（健康と医療に関する正しい情報を入手、理解、評価、活用するための能力）を向上させるための方略を探索する。健康と医療に関する事業の成果と経済効果の評価、地域住民への意識調査、学説と裁判例に基づく法学的分析の結果などをもとに、最善の医療コミュニケーションとセルフメディケーションの実践法を提案する。</p> <p>(植村 雅子)</p> <p>研究テーマ【抗がん作用を有する金属錯体の作用機序に関する研究】 シスプラチンに代表されるように、白金錯体は、がん化学療法に欠かせない薬剤であるという側面も持つ。その優れた抗がん活性に着目して、多くの金属錯体が創成されてきた。これらの作用機序を解明することは、効果</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博士論文研究	課題研究	<p>の高い抗がん剤創製の基盤構築に寄与する。本研究では、生化学的手法や金属元素分析を用いて、これらの金属錯体の細胞内への取り込み機構や細胞内における挙動を明らかにすることを課題とし、研究指導を行う。</p> <p>(大西 志保) 研究テーマ【がん予防を目指した発がん機構解明とバイオマーカーの研究】 炎症は重要な発がんリスクであり、慢性感染による炎症や潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患が発がんを促進する。がん部位では、異常活性化した炎症細胞などによる炎症性微小環境が形成され、炎症ががん悪性化を促進する。本研究課題では、炎症関連がんに着目し、モデル動物などを用いた実験的手法により、発がん機構解明とバイオマーカーの基礎研究を行う。がん予防に資する新知見を得ることを目標に、研究指導および論文指導を行う。</p> <p>(古川 絢子) 研究テーマ【加齢性神経変性疾患の発症・進展のメカニズム解明と治療標的分子の探索】 アルツハイマー病などの加齢性神経変性疾患では、病態形成の理解や治療標的分子が十分に解明されていない。本研究は、加齢性神経変性疾患の予防・治療に繋がる標的分子を解明することを目的とし、加齢性神経変性疾患の病態形成機序を解析することを研究課題とする。形態学的、生化学的、分子細胞生物学的な知識と技術を身につけ、加齢による細胞形態の変化や発現分子の変動、活性酸素や炎症の役割、タンパク質の修飾、老化細胞の表現型などを解析し、加齢性神経変性疾患の予防・治療を目標とした研究指導を行う。</p> <p>(及川 弘崇) 研究テーマ【発達過程における表現型の可塑性とその制御の研究】 生物の発達過程において、脳機能や病態の表現型は、遺伝情報だけでなく環境要因や分子機構によっても大きく左右される。本研究では、培養細胞・実験動物・病態モデルを用い、発達期における表現型の可塑性を制御するメカニズム解明に挑む。特に、臨界期の再賦活化機構と、同腹仔における表現型の多様性を生む分子基盤に焦点を当て、神経発達と病態形成の新たな理解を目指す。分子生物学的手法を駆使し、得られた知見をもとに、次世代の研究・医療応用への展開を視野に入れた教育と研究指導を行う。</p>	

研究指導教員一覧（教員は変更になることがあります）

分野	研究指導教員	研究テーマ
薬効制御学分野 病態解析・	飯田 靖彦 教授	病態特性に基づく選択的薬物移行を利用した臨床画像診断薬・治療薬の開発
	大倉 一人 教授	病態関連因子の動的機能解析、エネルギー代謝制御と薬効制御
	藤川 隆彦 教授	脳サプリメント等による代謝改善研究
	郡山 恵樹 教授	中枢神経の修復・再生促進化合物の探索とメカニズム解析
	古川 絢子 助教	加齢性神経変性疾患の発症・進展のメカニズム解明と治療標的分子の探索
薬物治療設計・ 管理学分野	大井 一弥 教授	皮膚生理機構の破綻要因と薬物治療に関する研究
	定金 豊 教授	神経変性疾患に関わる生体分子の老化分析および相互作用解析法の開発
	中山 浩伸 教授	真菌の生存戦略の解明を基盤とした抗真菌薬の開発
	西田 圭吾 教授	栄養素における免疫制御機構解明とその応用に関する研究
	及川 弘崇 教授	発達過程における表現型の可塑性とその制御の研究
医薬品解析・ 開発学分野	鈴木 宏治 教授	血栓症の分子病態解析と抗血栓性物質の探索研究
	佐藤 英介 教授	機能性食品による活性酸素代謝と老化・癌の制御
	田口 博明 教授	ペプチド科学を基盤技術とした高付加価値抗体作成法に関する研究
	米田 誠治 教授	遷移金属を用いた抗がん医薬品の開発研究
	植村 雅子 助教	抗がん作用を有する金属錯体の作用機序に関する研究
社会学分野 社会環境	三輪 高市 教授	精神科用薬の適正使用に関する研究
	榎屋 友幸 准教授	薬物治療における臨床疑問の解決に向けた研究
	坂 晋 准教授	薬剤・環境による胎児毒性に関する疫学研究
	森 尚義准教授	ヘルスリテラシーの向上に関する研究
	大西 志保 助教	がん予防を目指した発がん機構解明とバイオマーカーの研究
医療薬学教育部	伊奈田宏康 教授	
	八重 徹司 教授	
	林 雅彦 教授	

2026年度

鈴鹿医療科学大学大学院

入学志願票

受験番号	※
------	---

受験する課程	1. 医療科学研究科 修士課程 2. 医療科学研究科 博士後期課程 3. 薬学研究科 博士課程	期別	1. 1期 2. 2期	入試区分	1. 一般入試 2. 社会人特別選抜	写真貼付欄 1. 半身脱帽、正面背景無地 縦4cm×横3cm 2. 3ヶ月以内に撮影のもの 3. 裏面に氏名を記入すること
ふりがな		男・女	西暦	年 月 日	日生 歳	
氏名						
現住所	〒( ) 都道府県					
	TEL	-	-	携帯番号	-	-
学歴	高校	令和 平成 昭和	年 月	高等学校	科	卒業
	大学	令和 平成 昭和	年 月	大学	学部 学科	卒業 卒業見込
	その他	令和 平成 昭和	年 月			卒業 卒業見込
	大学院	令和 平成 昭和	年 月	大学院	研究科 専攻	修了 修了見込
保証人 (父母またはこれに代わる者)	氏名		続柄		職業	
	住所	〒( ) TEL - -				

※印は記入しないで下さい。

裏面も忘れずご記入下さい。

2026年度 鈴鹿医療科学大学大学院 受験票

1. 医療科学研究科 修士課程
2. 医療科学研究科 博士後期課程
3. 薬学研究科 博士課程

受験番号	※
ふりがな 氏名	男・女

生年月日
昭和・平成
年
月
日生

希望分野
------

2026年度 志願者写真票

1. 医療科学研究科 修士課程
2. 医療科学研究科 博士後期課程
3. 薬学研究科 博士課程

受験番号	※
ふりがな 氏名	男・女

写真貼付欄 1. 半身脱帽、正面背景無地 縦4cm×横3cm 2. 3ヶ月以内に撮影のもの 3. 裏面に氏名を記入すること
---

生年月日
昭和・平成
年
月
日生

希望分野
------

受験者心得

- ・本受験票は、試験当日に必ず持参し、試験中は机の上に置いてください。
- ・医療科学研究科修士課程（英語の出題がある分野）、博士後期課程受験の方は、当日英和辞書持込み可能です（電子辞書は不可）。
- ・薬学研究科受験の方は、試験時に英和辞書を貸出します。独自の辞書は持ち込まないでください。

期別	試験日	13:00～
1期	2025年 9月21日(日)	筆記試験・面接
2期	2026年 3月7日(土)	

履 歴	職	年 月 日	希望分野  筆記試験の分野をお選びください。  医療科学研究科 1. 放射線情報学 2. 医療栄養学 3. 臨床検査学 4. 理学療法学 5. 作業療法学 6. 医療福祉学 7. 臨床心理学 8. 臨床工学 9. 医療情報実践学 10. 鍼灸学 11. 看護学 12. 公認心理師・臨床心理士資格取得コース 13. 細胞検査士資格取得コース  薬学研究科 1. 病態解析・薬効制御学 2. 薬物治療設計・管理学 3. 医薬品解析・開発学 4. 社会環境薬学	
		年 月 日		
		年 月 日		
		年 月 日		
		年 月 日		
		年 月 日		
	歴	年 月 日		
		年 月 日		
		年 月 日		
	書	年 月 日		希望指導教員名
		年 月 日		希望する指導教員名を記入してください。
		年 月 日		
		年 月 日		
		年 月 日		
	年 月 日			
資 格 ・ 免 許 等	年 月 日			
	年 月 日			
	年 月 日			
	年 月 日			
	年 月 日			

(社会人受験者用)

受験番号	
------	--

## 受験および就学許可書

年 月 日

鈴鹿医療科学大学長 殿

住所

氏名

印

上記の者が、鈴鹿医療科学大学大学院の入学試験を受験することを許可します。尚、合格した際には本学で就学することも併せて許可します。

所属施設名 \_\_\_\_\_

所属施設長 \_\_\_\_\_ 印

所在地 〒

電話( ) -

(医療科学研究科 日本診療放射線技師会 推薦)

受験番号

## 推 薦 状

年 月 日

鈴鹿医療科学大学長 殿

住所 〒 -

氏名

印

上記の者が、鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科の入学試験に受験することを推薦します。

公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長

印

住所

注) 本用紙に住所・氏名を記入の上、「(公社)日本診療放射線技師会クリニカルラダー  
もしくはマネジメントラダーのレベル4」の写し等を添え、技師会事務局へ送付して  
ください。

なお、切手を貼った定形の返信用封筒を同封してください。

(薬学研究科 一般社団法人三重県薬剤師会推薦)

受験番号

## 推薦状

年 月 日

鈴鹿医療科学大学長 殿

住所 〒 -

氏名

印

上記の者が、鈴鹿医療科学大学大学院薬学研究科の入学試験に受験することを推薦  
します。

一般社団法人 三重県薬剤師会 会長

印

住所 〒514-0002 三重県津市島崎町311番地

注) 本用紙に住所・氏名を記入の上、三重県薬剤師会事務局へ送付してください。  
なお、切手を貼った定形の返信用封筒を同封してください。

# [A] 振込依頼書

電 信 扱

依頼日		年 月 日			勘定科目				
取扱銀行	銀行名	支店名	預金種目	口座番号	手数料				
	三十三銀行	神戸支店	普通預金	1321328					
受取人	フリガナ	ガク) スズカイリョウカガクダイガク							
	口座名	学校法人 鈴鹿医療科学大学							
	フリガナ								
依頼人 (志願者本人)	氏名 (漢字)								
	〒								
住									
所									
(TEL		-		-)					
金額		¥ 3 5 0 0 0			内 訳				
					現金				
					当手				
					他手				
照合・送信指示		処 理			受 付				

取扱銀行へお願い

- [A] [B] の各票に正確に収納印を押印の上、  
[B]票を依頼人へ返却してください。
- 振込手数料は本人払いです。



# [B] 振込金受領書(本人保存)

依頼日	年 月 日						
取扱銀行	三十三銀行 神戸支店						
金額	¥	3	5	0	0	0	手数料
受取人	鈴鹿医療科学大学						
志願者 氏名							

(取扱銀行が切り離してお渡しください)

この受領書をもって検定料35,000円の領収書とします。

鈴鹿医療科学大学  
大学院



# 書類等送付先住所シール

受験番号	※
------	---

鈴鹿医療科学大学大学院

明確に記入してください

〒	—
送り先	
氏名	様

〒	—
送り先	
氏名	様

〒	—
送り先	
氏名	様

〒	—
送り先	
氏名	様

5 1 0 0 2 9 3

速達

鈴鹿市岸岡町一〇〇一番地一

鈴鹿医療科学大学  
大学院 大学院課 行

切手貼付

(重ならないように  
貼付してください。)

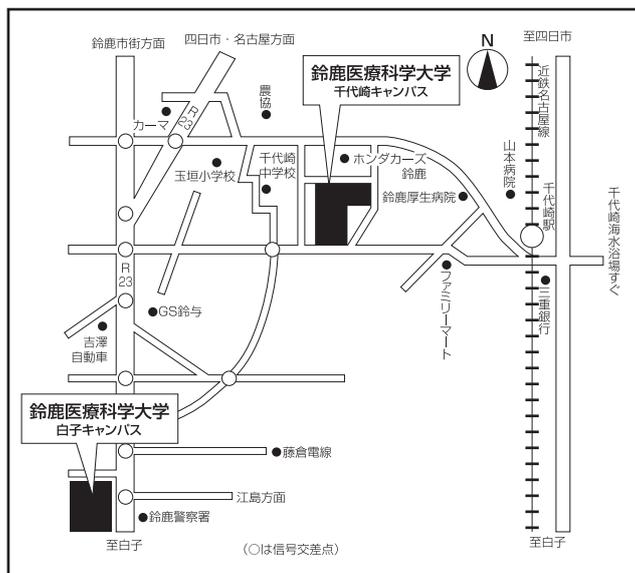
書留

引受番号

住所	〒 <input type="text"/> <input type="text"/> ☎ (    )    -
氏名	男・女

# 試験会場案内図

## ●本学会場（1期・2期）



### 千代崎キャンパス

- 近鉄千代崎駅下車徒歩13分
- 近鉄白子駅下車タクシー7分

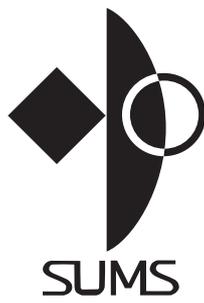
〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1

T E L (059) 340-0334

F A X (059) 383-9666

筆記試験過去問題が必要な方は下記までお問い合わせください

E-mail : s-hase@suzuka-u.ac.jp



## 鈴鹿医療科学大学 大学院課

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1

T E L (059) 340-0334 (大学院課直通)

F A X (059) 383-9666